

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	1111101	履修単位	2	2	2																	新井修 中島一			
一般	必修	1111A01	履修単位	4	4	4																	田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也, 遠藤健太			
一般	必修	1111A02	履修単位	2	2	2																	田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也			
一般	必修	1111B02	履修単位	1		2																	松尾俊寛, 園昭彦			
一般	必修	1111D02	履修単位	1		2																	山田洋平, 園昭彦			
一般	必修	1111F01	履修単位	2	4																		松尾俊寛, 園昭彦, 吉村洋, 大田直友, 山田洋平			
一般	必修	1111G01	履修単位	2	2	2																	錦織浩文			
一般	必修	1111H01	履修単位	2	2	2																	藤井浩美			
一般	必修	1111H02	履修単位	2	2	2																	谷中俊裕			
一般	必修	1111H03	履修単位	2	2	2																	プロウクトリスト, ファー小笠原麻衣子			
一般	必修	1111I01	履修単位	2	2	2																	藤居岳人			
一般	必修	1131G01	履修単位	4	4	4																	矢崎満夫			
一般	必修	1131G02	履修単位	4	4	4																	矢崎満夫			
一般	必修	1131G03	履修単位	2	2	2																	矢崎満夫			
一般	選択	1191201	履修単位	2	2	2																	上月佳代			
一般	必修	1112101	履修単位	2			2	2															新井修 中島一			
一般	必修	1112A01	履修単位	4			4	4															田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也			

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1111101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修, 中島 一				
到達目標					
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 安全に留意して運動や活動ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		周囲に合わせて、準備や活動をすることができる。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。				
授業の進め方・方法	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。 授業時間 60 時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		3週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		4週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		5週	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		7週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		8週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
	2ndQ	9週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		10週	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
		2週	卓球	サーブ、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		3週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		7週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	

4thQ	8週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	9週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	10週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	13週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 1
科目基礎情報					
科目番号	1111A01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「数学 I, 数学 II」(数研出版) / 「新課程 チャート式基礎からの 数学 I + A, II」, 「新課程 練習ドリル 数学 I, 数学 II」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳, 櫛田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也, 遠藤 健太				
到達目標					
1. 多項式の基本的な計算ができる。 2. 2次関数について理解し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことに活用できる。 3. 三角関数について理解し、その計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)
到達目標1	和や積の組み合わせを工夫して、式の展開や因数分解を行うことができる。		多項式の計算ができる。		基本的な多項式の計算ができる。
到達目標2	具体的な事象に対し、2次方程式や2次不等式を用いて、問題を解決することができる。		2次関数について理解し、2次方程式や2次不等式を解くことができる。		基本的な2次方程式や2次不等式を解くことができる。
到達目標3	具体的な事象に対し、三角関数を用いて問題を解決することができる。		三角関数およびそのグラフ等について理解し、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。		基本的な三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。基礎数学1では、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及び三角関数について基礎的な知識と技能を習得する。また、それらを的確に活用する能力を養い、数学的な見方や考え方を身につける。				
授業の進め方・方法	【授業時間120時間】				
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には、日々の復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.1 式の計算	整式の加法、減法、乗法の計算ができる。	
		2週	1.1 式の計算	公式を利用して因数分解ができる。	
		3週	1.1 式の計算	式の形の着目して、複雑な式の因数分解ができる。	
		4週	1.2 実数	実数の概念とその性質について理解できる。	
		5週	1.2 実数	根号を含む式について四則計算ができる。	
		6週	1.3 1次不等式	不等式の性質を理解し、1次不等式を解くことができる。	
		7週	1.3 1次不等式	1次不等式を身近な問題の解決に活用できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	2.1 2次関数とグラフ	関数とグラフの関係について理解し、グラフから関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		10週	2.1 2次関数とグラフ	一般的の2次関数のグラフをかける。	
		11週	2.1 2次関数とグラフ	2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		12週	2.2 2次方程式と2次不等式	2次方程式を解くことができる。	
		13週	2.2 2次方程式と2次不等式	判別式を利用して、2次方程式の解を分類することができる。	
		14週	2.2 2次方程式と2次不等式	判別式を利用して、2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べることができる。	
		15週	2.2 2次方程式と2次不等式	2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	3.1 三角比	正弦・余弦・正接を理解し、記号 $\sin\theta$, $\cos\theta$, $\tan\theta$ で表すことができる。	
		2週	3.1 三角比	正弦・余弦・正接の相互関係を理解し、それぞれの値を求めることができる。	
		3週	3.1 三角比	三角比の定義を拡張し、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の角 θ に対し、値を求めることができる。	
		4週	3.2 三角形への応用	正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	
		5週	3.2 三角形への応用	余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	

4thQ	6週	3.2 三角形への応用	正弦定理・余弦定理を適切に選んで活用することができる。
	7週	3.2 三角形への応用	三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。
	8週	後期中間試験	
	9週	4.1 三角関数	一般角について理解し、角を弧度法で表すことができる。
	10週	4.1 三角関数	いろいろな三角関数の値を求めることができる。
	11週	4.1 三角関数	三角関数について成り立つ等式を利用できる。
	12週	4.1 三角関数	三角関数のグラフをかくことができる。
	13週	4.1 三角関数	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。
	14週	4.2 加法定理	加法定理を利用して三角関数の値を求めることができる。
15週	4.2 加法定理	加法定理から導かれる公式を利用できる	
16週	学年末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	前1
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	前1	
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	前4,前5	
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	前12,前13	
			簡単な連立方程式を解くことができる。	3	前1	
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	前6,前7,前14,前15	
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	前10,前11	
			角を弧度法で表現することができる。	3	後9,後10,後11	
			三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後12,後13	
			加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	後14,後15	
			三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後11	
			三角比を理解し、簡単な場合について、三角比を求めることができる。	3	後1,後2,後3	
一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	後9,後10				
簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	前6				

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学A
科目基礎情報					
科目番号	1111A02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「数学A, 数学I, 数学II」(数研出版) / 「新課程 チャート式 基礎からの数学I + A, II」, 「新課程 練習ドリル 数学A, I, II」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也				
到達目標					
1. 場合の数を, 順列や組み合わせと関連して理解し整理できる。 2. 確率を集合との関係でとらえて計算できる。 3. 指数関数及び対数関数について理解し, その計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
到達目標 1	場合の数, 順列や組合せのやや複雑な計算ができる。		場合の数, 順列や組合せの標準的な計算ができる。		場合の数, 順列や組合せの基本的な計算ができる。
到達目標 2	具体的な事象に対し, 確率を集合との関係で理解することができ, やや複雑な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 標準的な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 基本的な計算ができる。
到達目標 3	指数関数及び対数関数について理解し, やや複雑な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 標準的な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 基本的な計算ができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。集合や命題の学習を通して論理的な思考を身につけ, 場合の数や確率を通して日常の中に現れる数学を学ぶ。また, 指数関数・対数関数について学び, 事象を数学的に考察し処理する能力とそれらを活用する態度を育てる。				
授業の進め方・方法	1. 授業に集中し, 効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には, 日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。 【授業時間 60 時間】				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.1 集合	集合について理解できる。	
		2週	1.1 集合	補集合とド・モルガンの法則を理解できる。	
		3週	1.2 場合の数	集合の要素を理解できる。	
		4週	1.2 場合の数	集合の要素の個数を理解できる。	
		5週	1.2 場合の数	順列の計算ができる。	
		6週	1.2 場合の数	順列の計算ができる。	
		7週	1.2 場合の数	組合せの計算ができる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	1.2 場合の数	組合せの計算ができる。	
		10週	1.3 確率	事象と確率を理解できる。	
		11週	1.3 確率	確率の基本性質を理解できる。	
		12週	1.3 確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		13週	1.3 確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		14週	1.3 確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		15週	1.3 確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		16週	前期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	2. 命題と条件	命題と条件について理解できる。	
		2週	2. 命題と条件	必要条件, 十分条件について理解できる。	
		3週	2. 命題と条件	命題と証明について理解できる。	
		4週	3.1 指数関数	指数法則を理解できる。	
		5週	3.1 指数関数	累乗根の計算ができる。	
		6週	3.1 指数関数	指数が有理数である指数法則を理解できる。	
		7週	3.1 指数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	3.1 指数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		10週	3.1 指数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解できる。	
		11週	3.1 指数関数	指数関数を含む方程式, 不等式を解くことができる。	
		12週	3.2 対数関数	指数と対数の関係を理解できる。	

	13週	3.2 対数関数	対数とその性質を理解できる。
	14週	3.2 対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解できる。
	15週	3.2 対数関数	対数関数を含む方程式、不等式を解くことができる。
	16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	後2,後3
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後6,後7
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後4,後5
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	後9,後10
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後11,後12
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後11,後12
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	前3,前4
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	前5,前6,前7,前9
				独立試行の確率、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率を理解し、簡単な場合について、確率を求めることができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15
条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象の確率を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。	3	前12,前13,前14,前15				

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 1
科目基礎情報				
科目番号	1111B02	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	総合物理 1 (数研出版)、リードα問題集 (数研出版)			
担当教員	松尾 俊寛, 園田 昭彦			

到達目標

物体にはたらく力を理解し、図で表すことができる。物体に対する力のつりあいの式を立てることができる。物体の運動に関してニュートンの3法則を用いた基本的な計算を行うことができる。静止摩擦力と動摩擦力の違いについて説明でき、計算できる。力のモーメントに関して理解している。物体の運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーに関して理解している。保存力について説明できる。力学的エネルギーの保存則に関する問題を解くことができる。力学的エネルギーが保存しない場合の問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)
1. 力	物体にはたらく力を図示でき、その関係を説明でき、力の計算ができる。	物体にはたらく力を図示でき、力の計算ができる。	重力や弾性力などの計算ができる。
2. 力のつりあいの式	力のつりあいの諸問題について解くことができる。	複数の物体にはたらく力のつりあいの式を求めることができる。	斜面上における物体にはたらく力のつりあいの式を求めることができる。
3. 慣性の法則	慣性の法則に関する諸問題について解くことができる。	慣性の法則について説明することができる。	慣性の法則が成り立つ例を挙げることができる。
4. 運動方程式	2体に多数の力がはたらく際の運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。	2体における運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。	1体における運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。
5. 作用・反作用の法則	作用・反作用の法則に関する諸問題について解くことができる。	作用・反作用の法則について説明することができる。	作用・反作用の法則にしたがう例を挙げることができる。
6. 静止摩擦力と動摩擦力	摩擦力とその他の力がはたらく物体における複合問題を解くことができる。	静止摩擦力と動摩擦力の標準的な問題を解くことができる。	静止摩擦力と動摩擦力の違いについて説明できる。
7. 圧力、浮力	圧力と浮力における発展問題を解くことができる。	圧力と浮力における標準問題を解くことができる。	圧力と浮力における基本問題を解くことができる。
8. 力のモーメント	剛体の転倒に関する問題を解くことができる。	剛体の力のつりあいの式と力のモーメントのつりあいの式を立てることができる。	力のモーメントの計算ができる。
9. 仕事・仕事率	力が一定でない場合の仕事について理解し、説明できる。	仕事と仕事率の標準問題を解くことができる。	仕事と仕事率の定義を説明でき、計算することができる。
10. 運動エネルギーと位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの一般論を理解し、説明することができる。	位置エネルギーの基準点について正確に理解し、標準問題を解くことができる。	運動エネルギーと位置エネルギーの式を書くことができ、簡単な計算問題が解くことができる。
11. 力学的エネルギーの保存則	重力やばねによる位置エネルギーに関連した複合問題を解くことができる。	力学的エネルギーの保存則の式を運動エネルギーと仕事の関係式から導出でき、標準問題を解くことができる。	力学的エネルギーの保存則の式を書くことができ、基本問題を解くことができる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。1年生では、力学を中心に学習する。
授業の進め方・方法	講義では積極的に発言し、理解できないことや疑問に思ったことなどは質問すること。また、友達や先輩などを捕まえて積極的に議論を行うこと。予習→講義→復習、このサイクルを大切に、自分の理解度が定量的に分かるようにしておくこと。
注意点	簡単な物理実験を行う場合がある。そのときは事前に連絡を行う。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	--	--	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	力のつりあい	図を用いて力のつりあいの式を立てることができる
		2週	運動の法則1	運動の3つの法則を説明できる
		3週	運動の法則2	簡単な系に対して運動方程式を立てることができる
		4週	運動の法則3	斜面上の物体の運動方程式をあつかえる
		5週	運動の法則4	2物体の運動方程式をあつかえる
		6週	摩擦を受ける運動1	静止摩擦力と最大摩擦力を説明できる
		7週	摩擦を受ける運動2	動摩擦力を説明できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	液体や気体から受ける力	圧力、浮力を説明できる
		10週	剛体にはたらく力1	力のモーメントのつりあいについて説明できる
		11週	剛体にはたらく力2	剛体の転倒に関する問題を解くことができる
		12週	仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの関係について説明できる

	13週	運動エネルギー	運動エネルギーを計算できる
	14週	位置エネルギー	種々の位置エネルギーを計算できる
	15週	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を使って問題を解くことができる
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	
				運動の法則について説明できる。	3	
				静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3					
弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3					
力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3					
力のモーメントを求めることができる。	3					
剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3					
重心に関する計算ができる。	3					

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 1
科目基礎情報					
科目番号	1111D02	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎 (第一学習社)、フォローアップドリル化学基礎 (数研出版)、新課程 リードα化学基礎+化学 (数研出版)、新課程 化学図録 (数研出版)				
担当教員	山田 洋平, 園田 昭彦				
到達目標					
1. 化学結合の概念と物質が持つ性質をリンクさせて説明できる。 2. 代表的なイオンや化学物質の名前や化学式を記述できる。 3. 化学反応式の係数を正しく決定でき、その係数に基づき化学反応を定量的に扱うことができる。 4. pHの定義を二つ (アレニウス、ブレンステッド・ローリー) 説明できる。また、典型的な中和反応式を書くことができる。 5. 中和反応の滴定実験の原理や滴定曲線について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安		
1. 化学結合	共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について正確に説明できる。関連する演習問題を8割以上解くことができる。	共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について簡易に説明できる。関連する演習問題を7割程度は解くことができる。	共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について一部説明できる。関連する演習問題のうち基本問題であれば5割程度解くことができる。		
2. 化学式・イオン式	教科書に記載のある物質の名前や化学式を8割以上覚え、書くことができる。	教科書に記載のある物質の名前や化学式を7割程度は覚え、書くことができる。	教科書に記載のある物質の名前や化学式を5割程度は覚え、書くことができる。		
3. 物質質量・化学反応式・量的関係	化学反応式の係数を正確に決定できる。また係数に基づき、量的関係を正確に説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を正確に計算できる。	(7割程度) 化学反応式の係数を決定できる。また係数に基づき、量的関係を説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を計算できる。	(5割程度) 化学反応式の係数を決定できる。また係数に基づき、量的関係を説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を計算できる。		
4. pHの定義・中和反応式の記述	pHの定義を二つ説明できる。応用的なpHの計算問題を解くことができる。	pHの定義を一つ以上説明できる。標準的なpHの計算問題を解くことができる。	pHの定義を復習すれば一つ以上説明できる。pHに関する基礎的な問題であれば解くことができる。		
5. 酸・塩基滴定実験の原理	中和滴定において、反応式から量的関係・滴定曲線の形などを予測し説明できる。	中和滴定において、少しのヒントが与えられれば反応式から量的関係・滴定曲線の形などを予測し説明できる。	中和滴定において、基礎的なレベルであれば量的関係を計算したり、滴定曲線の形などについて考察できる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前期の理工学基礎での知識をベースにして、更に化学の学習を進めていく。化学に関する重要語句や概念が数多く出てくるので、語句の意味については学生自身が説明できるようになるまで、反復して覚えること。また、定量的に化学反応を扱う能力を身に付けること。				
授業の進め方・方法	基本的に、解説と演習のサイクルで授業を進めていく。演習の際には集中して問題を解くこと、分からないことがあれば積極的に議論すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	共有結合	共有結合の原理を説明できる。分子模型を用いて簡単な分子を組み立てることができる。	
		2週	共有結合	簡単な物質の電子式と構造式が書ける。	
		3週	配位結合・分子の極性	配位結合と分子の極性を説明できる。	
		4週	分子間の結合	分子結晶の特徴を説明できる。極性分子間に働く力を説明できる。	
		5週	物質質量	原子量、分子量、式量の考え方を説明できる。	
		6週	物質質量	物質質量を用いた簡単な計算ができる。	
		7週	溶液濃度	溶液濃度の定義を学び、濃度を計算する。	
	8週	中間試験	中間試験		
	4thQ	9週	化学反応式	化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
		10週	化学反応式	化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
		11週	酸と塩基	酸と塩基の定義を説明できる。	
		12週	酸と塩基	簡単なpHの計算問題が解ける。	
		13週	酸と塩基	中和反応の量的関係を説明できる。	
		14週	酸と塩基	中和滴定実験の操作の原理を説明できる、滴定実験を行うことができる。	
15週		酸と塩基	中和滴定曲線や指示薬の選択について簡単な説明ができる。		

	16週	期末試験	期末試験返却
--	-----	------	--------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	物質が原子からできていることを説明できる。	3	
			単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
			同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
			純物質と混合物の区別が説明できる。	3	
			混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3	
			物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3	
			水の状態変化が説明できる。	3	
			物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	
			原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3	
			同位体について説明できる。	3	
			放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	
			原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	
			価電子の働きについて説明できる。	3	
			原子のイオン化について説明できる。	3	
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	
			原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	
			元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	
			イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	
			イオン結合について説明できる。	3	
			イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	
			イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	
			共有結合について説明できる。	3	
			構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	
			自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	
			金属の性質を説明できる。	3	
			原子の相対質量が説明できる。	3	
			天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	3	
			アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	3	
		分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	3		
		気体の体積と物質量の関係を説明できる。	3		
		化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3		
		化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	3		
		電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3		
		質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3		
モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3				
酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3				
酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3				
電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3				
pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3				
中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3				
中和滴定の計算ができる。	3				
ガラス器具の取り扱いができる。	3				
基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3				
試薬の調製ができる。	3				
化学実験	化学実験				

評価割合

	試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合
科目基礎情報					
科目番号	1111F01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	総合物理 1 (数研), リードα問題集物理 (数研出版), 化学基礎 (第一学習社), リードα問題集化学 (数研出版), 地学基礎 (啓林館), 生物基礎 (東京書籍)				
担当教員	松尾 俊寛, 園田 昭彦, 吉村 洋, 大田 直友, 山田 洋平				
到達目標					
理工学基礎: 工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。 物理: 物体の運動に関してニュートンの3法則を用いた基本的な計算を行うことができる。 化学: 身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて理解できる。 地学: 地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動について説明できる。 生物: 生物の進化や多様性・生態系について理解するとともに、地球環境問題の原因や保全対策について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)
理工学基礎	工学、自然科学で対象とする量や単位について、原理を理解し、自在に取り扱うことができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位に関する典型的な問題について取り扱いができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。
物理	速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式を導出でき、応用問題を解くことができる。		速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式を導出でき、基本問題を解くことができる。		速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式に当てはめて、基本問題を解くことができる。
化学	身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて説明でき、問題解決に応用できる。		身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて説明できる。		身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて理解できる。
地学	地球の表層や内部構造について説明でき、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動を理解できる。
生物	生物の進化や多様性、生態系について理解し、持続可能な社会を目指すための環境保全活動ができる。		生物の進化や多様性、生態系について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。		生物の進化や多様性、生態系について理解し、環境問題の生物への影響や保全対策が理解できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理科の総合的学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理・化学・生物・地学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	理工学基礎(第1~2週)、地学・生物(第3~7週)、物理・化学(第9週以降)の順に授業を行う。 【授業時間60時間】				
注意点	地学、生物分野の成績評価についてはレポート課題によって行う。(各10%)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	理工学基礎: 有効数字	数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		2週	理工学基礎: 数値と単位	数値の意味を理解し、種々の物理量に単位をつけることができる。	
		3週	地学: 宇宙と地球 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		4週	地学: 宇宙と地球 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		5週	地学: 大気と海洋 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		6週	地学: 大気と海洋 生物: 人間活動と地球環境の保全	地学: 地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。 生物: 生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる	
		7週	地学: 大気と海洋 生物: 人間活動と地球環境の保全	地学: 地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。 生物: 生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる	
		8週	中間試験		

2ndQ	9週	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：変位・速度・加速度の定義を説明できる 化学：混合物と純物質の違い、混合物を分離・生成する方法を説明できる。
	10週	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：平面運動の変位が説明できる 化学：化合物と単体、同素体、物質の三態などの用語を説明できる。
	11週	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造	物理：相対速度の問題が解ける 化学：原子の構造、電子配置の考え方を説明できる。
	12週	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造・周期表	物理：等加速度直線運動の公式を運用して問題が解ける 化学：周期表と電子配置の関係を説明できる。
	13週	物理：落体の運動 化学：周期表	物理：自由落下、鉛直投射の問題が解ける 化学：族と周期、金属元素と非金属元素などの語句を説明できる。
	14週	物理：落体の運動 化学：化学結合	物理：水平・斜方投射の問題が解ける 化学：化学結合の概要を説明できる。
	15週	物理：いろいろな力 化学：イオン化、イオン結合	物理：重力や弾性力、摩擦力の性質を説明できる 化学：イオン化の生成やイオン化の際に必要なエネルギーを説明できる。イオン結合と説明でき、組成式が記述できる。
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前9		
			直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	前10,前11		
			等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前12		
			平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前10		
			物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3			
			平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	前9		
			自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前13		
			水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前14		
			化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	1	
					洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	1	
					物質が原子からできていることを説明できる。	3	
					単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
					同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
					純物質と混合物の区別が説明できる。	3	
	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3					
	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3					
	水の状態変化が説明できる。	3					
	物質の三態とその状態変化を説明できる。	3					
	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3					
	同位体について説明できる。	3					
	放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3					
	原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3					
	価電子の働きについて説明できる。	3					
	原子のイオン化について説明できる。	3					
	代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3					
	原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3					
	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3					
	イオン式とイオンの名称を説明できる。	3					
	イオン結合について説明できる。	3					
	イオン結合性物質の性質を説明できる。	3					
	イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3					
	共有結合について説明できる。	3					
	構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3					
自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3						
金属の性質を説明できる。	3						
化学実験	化学実験	測定と測定値の取り扱いができる。	3				

		ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	
				太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	3	前3,前4
				地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	前3,前4
				陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	前6,前7
				地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	前3,前4
				マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	前3,前4
				地震の発生と断層運動について説明できる。	3	前3,前4
				地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	前5,前6
				プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	前5,前6
				地球上の生物の多様性について説明できる。	3	前3
				生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3	前3,前4
				生物に共通する性質について説明できる。	3	前3,前4
				大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	前6,前7
				大気の大循環を理解し、大気の運動を説明できる。	3	前6,前7
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	前6,前7
				海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	3	前6,前7
				植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3	前6
				世界のバイオームとその分布について説明できる。	3	前6
				日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3	前6
	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	前6,前7			
	生態ピラミッドについて説明できる。	3	前6,前7			
	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3	前6,前7			
	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	前6,前7			
有害物質の生物濃縮について説明できる。	3	前6,前7				
地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	前6,前7				
工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3		

評価割合						
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	40	10	20	10	20	100
基礎的能力	30	10	20	10	20	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語総合
科目基礎情報					
科目番号	1111G01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高専日本語アビリティ I (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				
担当教員	錦織 浩文				
到達目標					
1. 情報の収集・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。 2. 実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 3. 古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	情報の収集・整理を適切に行い、論理的な構成・適切な表現スキルにより口頭発表できる。		情報の収集・整理を適切に行い、論理的な構成により口頭発表できる。		情報の収集・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。
到達目標2	実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を適切に用いて即応的に作成できる。		実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を適切に用いて作成できる。		実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。
到達目標3	古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を自分の考えを加えて適切に説明できる。		古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を適切に説明できる。		古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を説明できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は、文章表現に関する学習・練習を基本とする。また、表現力・理解力を育むために漢字学習を行う。【授業時間60時間】				
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		3週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		4週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		5週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		6週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		7週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	詩歌作成 (短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成できる。	
		10週	詩歌作成 (短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成できる。	
		11週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		12週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		13週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		14週	詩歌作成 (俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成できる。	
		15週	詩歌作成 (俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成できる。	
		16週	答案返却		
後期	3rdQ	1週	文章作成 (超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成できる。	
		2週	文章作成 (超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成できる。	
		3週	古文 (物語)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		4週	古文 (物語)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		5週	古文 (日記)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		6週	古文 (随筆)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		7週	古文 (紀行文)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	発表 (POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表できる。	
		10週	発表 (POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表できる。	

	11週	小論文	小論文作成のための構成メモを作成できる。
	12週	小論文	テーマに沿って小論文を作成できる。
	13週	漢文（漢詩）	漢詩の基礎を理解し説明できる。
	14週	漢文（格言）	格言の意味・内容を説明できる。
	15週	漢文（格言）	格言の意味・内容を説明できる。
	16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	2	後9,後10,後11
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前8,前9,前10,前14,前15,後1,後2,後8
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前9,前10,前14,前15,後1,後2
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	後12,後13
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前11,前12,前13
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	後14,後15
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	前1,後14,後15
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	後14,後15
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	後11,後14,後15
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	後11,後14,後15
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	後14,後15
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	後14,後15			

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	20	10	0	100
基礎的能力	70	0	20	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 1
科目基礎情報					
科目番号	1111H01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	CREATIVE English Communication 1, 同準処予習・授業ノート, およびWORKBOOK (第一学習社) WORD BOX【エッセンシャル】およびWORD BOX 学習ノート1、2 (美誠社)				
担当教員	藤井 浩美				
到達目標					
1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身につける。 2. 情報や考えなどを的確に理解し、概要や要点をとらえることができる英文読解力を身につける。 3. 教科書や語彙集に登場する語彙やチャンクの意味を理解し習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	予習復習などの英語学習習慣の確立に加え、自分なりの目標を設定し意欲的・積極的に学習に取り組んでいる。		予習復習を中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。		予習復習などの英語の学習習慣が身につけておらず、受動的な姿勢で授業に臨んでいる。
到達目標2	自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえ、自分の意見や考えを表現できる。		自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。		自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、概要を理解できる。
到達目標3	教科書の読み物や語彙集で扱われた語句を80%以上の正確さで理解している。英語語彙力が2500語レベルである。		教科書の読み物や語彙集で扱われた語句を60~79%以上の正確さで理解している。英語語彙力が2000語レベルである。		教科書の読み物や語彙集で扱われた語句の習得が60%未満にとどまっている。英語語彙力が1500語レベル以下にとどまっている。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に、教科書の音読を通して英語の発音と自然なリズムと直読直解のスキルを身に付ける。さらに、語彙集を用いて語句やチャンクを暗記し、語句の使い方を学習し、語彙力を増やす。				
授業の進め方・方法	教科書準拠の予習ノートを用いて授業を行う。予習では、新出単語や不明な語句を辞書を使って調べる。授業は確認テストから始める。その後、単元の学習のポイントを説明し、音読やシャドウイングを行ってインプットの定着を促進する。復習として、その単元のワークブックの問題を解き、学習内容の定着を図る。語彙集に関しては、小テストを随時行い、学習の進捗を確認する。 【授業時間60時間】				
注意点	1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーションで指示するやり方で、十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として、長期休暇中に課題を課す。 4. 語彙集を用いて、単語テストを実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	新入生課題テスト (WORD BOX stage 0) オリエンテーション、Lesson 1(1)	・学習方法についての理解 教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		2週	Lesson 1(1) WORD BOX (unit 1 ~unit 5)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		3週	Lesson 1(2) WORD BOX (unit 6 ~unit 8)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		4週	Lesson 1(3) WORD BOX (unit 9 ~unit 11)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		5週	Lesson 1(4) WORD BOX (unit 12 ~unit 14)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		6週	Lesson 1 確認テスト WORD BOX (unit 15 ~unit 17)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		7週	Lesson 3(1) WORD BOX (unit 18 ~unit 20)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		8週	Lesson 3 (2) WORD BOX (unit 26 ~unit 28)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 21 ~unit 25)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	

		10週	前期中間答案返却/語彙力診断テスト Lesson 3(3)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		11週	Lesson 3 (4) WORD BOX (unit 29 ~unit 31)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		12週	Lesson 3 確認テスト WORD BOX (unit 32 ~unit 34)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		13週	Lesson 5 (1) WORD BOX (unit 35 ~unit 37)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		14週	Lesson 5 (2) WORD BOX (unit 38 ~unit 40)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		15週	前期末試験対策	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		16週	前期末答案返却		
	後期	3rdQ	1週	課題テスト: WORD BOX (unit 41 ~ unit 60) Lesson 5 (3)	定着度を測るための確認テスト (夏休み明け実施) 教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			2週	Lesson 5 (4) WORD BOX Unit 61~ Unit 63)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			3週	L5 確認テスト WORD BOX (unit 64 ~unit 66)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			4週	Lesson 7(1) WORD BOX (unit 67 ~unit 70)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			5週	Lesson 7(2) WORD BOX (unit 76 ~unit 78)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			6週	Lesson 7(3) WORD BOX (unit 79 ~unit 81)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			7週	Lesson 7(4) WORD BOX (unit 82 ~unit 84)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			8週	L7 確認テスト WORD BOX (unit 85 ~unit 87)	定着度を測るための確認テスト
		4thQ	9週	後期中間試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 71 ~unit 75)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
10週			Lesson9(1) WORD BOX (unit 88 ~unit 90)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
11週			Lesson 9 (2) WORD BOX (unit 88 ~unit 90)	定着度を測るための確認テスト	
12週			Lesson 9(3) WORD BOX (unit 91 ~unit 93)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
13週			Lesson 9(4) WORD BOX (unit 94 ~unit 95)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
14週			L9 確認テスト	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
15週			学年末試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 96 ~unit 100)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
16週			学年末答案返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3 前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合					
	定期試験	小テスト	課題・取り組み姿勢	発表・取り組み姿勢	合計
総合評価割合	60	20	20	0	100

基礎的能力	60	20	20	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	1111H02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ブレイクスルー英文法36章/副教材: ブレイクスルー英文法36章ワークブック、リスニング問題集All Ears Basic 改訂版、同学習ノート、参考書: ブレイクスルー総合英語 (すべて美誠社)				
担当教員	谷中 俊裕				
到達目標					
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 3. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文の知識を利用して文レベルの英作文(和文英訳)ができる。 4. リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル		
評価項目1	基本的な英文法の内容や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、正確に説明できる。	基本的な英文法の内容や構文を理解し、それらを用いて例文のポイントの概略を説明できる。	基本的な英文法の内容や構文の理解が最低限のポイントを理解し、例文でその該当部分を指摘できる。		
評価項目2	学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を正しく解釈できる。	若干の語句のヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を解釈できる。	ポイント以外の語句までヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を解釈できる。		
評価項目3	学習した文法や文法の内容や構文の知識を用いて、正しい1文単位の英作文ができる。	若干の語句のヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、正しい1文単位の英作文ができる。	ポイント以外の語句までヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位の英作文ができる。		
評価項目4	リスニング教材で取り扱う英文のシャドウイングが完全にできる。	速読で取り扱う英文を、若干発音が正確でない語句があるが、全文をシャドウイングできる。	速読で取り扱う英文を、若干発音できない語句があるが、全体としては遅れずにシャドウイングできる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文法の理解を通じて英語の4技能のうちの2技能(「読む」・「書く」)の基礎力を固める。また、補助教材のリスニング教材の演習で「聞く」力を高め、会話表現を学習することと音読練習を通して「話す」力の基礎も伸ばす。				
授業の進め方・方法	文法は文法項目についての講義のあと、問題集を用いてEnglish Grammar 36の問題演習に取り組む。予習には基本例文ノートを用い、復習にはEnglish Grammar 36のワークブックを用いる。併せてリスニング教材を用いて少しずつリスニング演習を行う。また、基本例文の小テストを実施する。				
注意点	1. プリント類や問題集を日頃からキチンと整理しておくこと。 2. 授業には必ず辞書(電子辞書可)を持ってくること。 3. 提出物の期限は厳守すること。 4. 下記授業計画以外に小テストや提出課題を課す。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	(1)シラバスなどを通して授業の目標や方法を理解する。	
		2週	文の種類	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		3週	基本文型 (1)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		4週	基本文型 (2)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		5週	様々な疑問文	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		6週	基本時制	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	

後期		7週	復習問題 All Ears L1	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ		9週	進行形	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			10週	完了形 (1)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		11週	完了形 (2) など	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		12週	復習問題 All Ears L2	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		13週	復習問題 All Ears L3	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		14週	助動詞 (1) All Ears L4	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		15週	小テスト		
		16週	前期末試験および答案返却		
	3rdQ		1週	助動詞 (2) All Ears L5	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			2週	助動詞 (3) All Ears L6	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			3週	受動態 (1) All Ears L7	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			4週	受動態 (2) All Ears L8	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			5週	受動態 (2) All Ears L9	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			6週	不定詞 (1) All Ears L10	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
7週			不定詞 (2) All Ears L11	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
8週			後期中間試験		
4thQ		9週	不定詞 (3) All Ears L12	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	

		10週	不定詞 (4) All Ears L13	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		11週	不定詞 (4) All Ears L14	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		12週	動名詞 (1) All Ears L15	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		13週	動名詞 (2) All Ears L17	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		14週	復習問題	
		15週	小テスト	
		16週	学年末試験および答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	50	10	40	0	0	100
基礎的能力	50	10	40	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語コミュニケーション基礎
科目基礎情報					
科目番号	1111H03		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Stretch Starter Student Book				
担当教員	プロフント クリストファー, 小笠原 麻衣子				
到達目標					
<p>1.教科書の各ユニットの会話をディクテーション、シャドーイングでできる。 2.各ユニットの重要表現を習得しやり取りできる。また、それを英作文で活用できる。 3.英語で行われる授業に慣れ、躓いても辞書に頼らず推測するスキルを身に付ける。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	教科書各ユニットの内容が十分理解でき、音声をディクテーションできる。正しい発音でシャドーイングできる。		教科書各ユニットの内容が理解でき、音声を半分以上はディクテーションできる。文章を見ながらであれば正しい発音でシャドーイングできる。		教科書各ユニットの内容がだいたい理解できる。空所補充形式などヒントのディクテーションしかできない。リピーティングの音読しかできない。
到達目標2	教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を用いて活発にやり取りができる。また、80ワード程度の作文を正確に書くことができる。		教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を用いてやり取りができる。また、70ワード程度の作文を書くことができる。		教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を使つての発話にとどまり、やり取りは十分できない。また、作文の語数が70ワードに満たない。
到達目標3	クラスルームイングリッシュ(授業で教師が使う指示や会話の英語)が完璧に理解できなくても推測する習慣を身につける。また、自分の使える英語表現を存分に使い、相手とネゴシエーション(意思疎通、交渉、議論)する姿勢とスキルを習得する。また授業やグループワークでは会話をリードできる。		クラスルームイングリッシュが完璧に理解できなくても推測する習慣を身につける。また、自分の使える英語表現を駆使して、他の生徒と協力してネゴシエーションする姿勢とスキルを習得する。		クラスルームイングリッシュの理解が不十分で活動ができない。英語での意思疎通も困難である。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語コミュニケーション基礎では、授業自体を英語で行う。後期のネイティブ教師によるオールイングリッシュの授業に備え、前期はリスニング力を強化していく。ディクテーション(聞いて書き取る)、シャドーイング(復唱)などのボトムアップリスニングで基礎を固め、授業を英語で行うことによりトップダウンリスニング(推測しながら英語を聞く)に慣れる。前期・後期を通じて、スポーツ、映画、旅行などさまざまなトピックを取り上げて英語学習を進めて行く。教科書で扱う新しい英語表現を身につけるとともに、学習や活動の過程で、中学校までの既習英語を積極的に使う機会を設け、教師やクラスメイトとの積極的なやり取りも促して行く。				
授業の進め方・方法	授業は授業計画に沿って進める。教科書のユニットごとにトピックが設定されており、毎週そのトピックについて学習し、翌週に当該ユニットのワークブック(教科書後半)で理解度を確認する。3ユニットごとにSelf-Assesmentのペーシを使って復習し定着を図る。毎週授業前に教科書に目を通しておくこと。ONLINE PRACTICE(教科書の最後にあるアクセスコードで登録すると、オンライン学習できます)を利用して予習しておく、授業内容が理解しやすいだろう。授業は英語で行い、授業中のやり取りも英語で行うが、日本語禁止ではない。クラスメイトと確認し合う、困っている人をサポートする、など協力して理解を深められるような雰囲気を作っておこう。また、授業外でも生きた英語に触れられるよう、参考資料や動画をmanabaにアップする。自分でも興味のあることは、さまざまなメディアを活用して英語で情報収集するなど積極的に英語に触れる機会を作るよう心掛けよう。				
注意点	1.ワークブックへの書き込みチェックのため、教科書の提出あり 2. 適宜小テストを行う 3. manabaで動画視聴やレポート提出あり				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・自己紹介・Unit 1 : Meeting People	当該授業のシラバスをよく読み、教科書の使い方、授業の進め方、評価方法などを確認。Unit1を学習し自己紹介をする	
		2週	Unit 1 Workbook	事前学習としてワークブックに取り組み、登場人物を紹介することができる	
		3週	Unit 2 : Countries and nationalities	国、国籍に関する表現を学び、友達や有名人を紹介することができる	
		4週	Unit 2 Workbook	事前学習としてワークブックに取り組み、さまざまな国の観光地や料理を紹介することができる。	
		5週	Unit3 : Family	家族に関する表現を学び、自分の家族について話すことができる。また相手の家族について質問することができる。	
		6週	Quiz1・Unit 3 Workbook	事前学習としてワークブックに取り組み、家族について話す上でのマナーを身につける。	
		7週	Self-Assesment Unit 1-3	Unit1-3の理解度を確認し、理解できていない、また忘れた箇所を復習する。中間試験の準備をする。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・Unit 4 : Describing people	人物を描写する上で必要な、身長、髪、年齢、ファッションを含めた見た目に関する表現を学ぶ。	

		10週	Unit 4 Workbook・ワークブック提出	事前学習としてワークブックに取り組み、有名人を描写することができる。また、見た目について質問することができる。
		11週	Unit 5 : Food and drink	食べ物や飲食、レストランに関する表現を学習し、自分の好きな食べ物、レストランについて紹介することができる。
		12週	Unit 5 Workbook	事前学習としてワークブックに取り組み、世界各国のフードカルチャーに関する知識を身につけ、食レポ(60words程度)を書く。
		13週	Quiz 2・Unit6 : Things we do	日常生活について現在形を使って述べるができる。現在進行形と区別する。
		14週	Unit 6 Workbook・ワークブック提出	事前学習としてワークブックに取り組み、p.32Cのチャートを文章化(70words程度)し、自分の日課について述べるができる。
		15週	Self-Assesment Unit 4-6	Unit4-6の理解度を確認し、理解できていない、また忘れた箇所を復習する。期末試験の準備をする。
		16週	答案返却	
後期	3rdQ	1週	Unit 8: Free Time Activities	現在形を正しく使って、日常生活や週末の出来事を話すことができる。"How often…?"などの時間に関する表現を使い質問ができる。
		2週	Unit 8: Reading and Writing	表やグラフを使って、著者のねらいや、内容の概要が分かる。
		3週	Workbook: Culture Talk (Too Much Screen Time)	事前学習としてワークブックに取り組み。統計や数字を含んだアナウンスメントの概要を聞き取ることができる。クラスで、アンケート調査を実施することができる。
		4週	Unit 9: Popular Sports	canを使って、能力を表すことができる。"and" や "but" を用いて正しく文章(重文)を作成できる。
		5週	Workbook: Culture Talk (Women's Soccer)	事前学習としてワークブックに取り組み。日本と他国の文化比較ができる。比較表現を使い80語程度の作文を書くことができる。
		6週	Unit 9: Listening and Presenting	クラブ活動や、日常での運動について発表し、クラスメイトと質疑応答できる。
		7週	Quiz 3・Self-Assessment Units 8-9 Review	余暇時間の活動について頻度を表す表現を正しく使って話すことができる。また、wh疑問文を使う、それに答えるやり取りができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験返却 Unit 10: Big Events intro	人生の中の重要な出来事について話すことができる。日時に関する表現を使うことができる。
		10週	Unit 10: Big Events	"be"動詞と "going to" や "gonna"など自然な表現ができる。アクティブなリスニングができる。
		11週	Interview (Vacation Planning and pronunciation work)	時系列に関する表現を使いクラスメイトにWHから始まる質問をし、また、相互に過去形を使ってやり取りができる。
		12週	Unit 11: Making Plans	写真見て未来を予測し、それを正しい未来表現を使って述べるができる。会話の中で話者の予定を聞きながら英語でノートを取ることができる。
		13週	Unit 11: Accepting or Declining an Invitation	様々なフレーズを使って、招待に受け答えできる。また、その理由を丁寧な表現を使って丁寧に説明できる。
		14週	ワークブック提出・Unit 12: On Vacation	過去形を正しく使い、休日について話すことができる。会話が広がる質問や受け答えのフレーズを身につけ、実際のやり取りで活用できる。
		15週	Self-Assessment Units 10-12 Review for final exam	これまでに学習した文法と語彙で、過去形と現在形を用いてクラスメイトと質疑応答ができる。
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3		
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3		
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3		

			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながらる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながらるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	提出物	取り組み姿勢	合計
総合評価割合	60	10	20	10	100
基礎的能力	60	10	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	倫理
科目基礎情報					
科目番号	1111I01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	倫理(数研出版)/講義中に、適宜、紹介します。				
担当教員	藤居 岳人				
到達目標					
1. 日本とは異なった外国文化等、倫理・思想に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 「ものづくり」に関する調査を通して、技術者と倫理との関係について基礎的な内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標1	倫理・思想に関する基礎的な知識について詳細に説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その概要を説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その要点を説明できる。		
到達目標2	調査レポートの論旨が明快で、その内容について詳細に説明できる。	調査レポートがまとまっており、その内容について十分に説明できる。	調査レポートの論旨がやや不明瞭だが、その内容についてある程度説明できる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々人間は社会の中で生活している関係上、自己実現を果たしながら、なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります。自己と他者との間の、共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます。本講義では、自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います。また、「ものづくり」に関する調査を通して、技術者としての基本的倫理観について考えてもらいたいと思います。				
授業の進め方・方法	基本的に教室での講義ですが、「ものづくり」に関する調査のときは演習室で実施します。 【授業時間60時間】				
注意点	1. 成績評価とも関連しますが、講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。 2. 「ものづくり」に関する調査は、前期・後期にそれぞれ実施します(時期は適宜)。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「倫理」とは?	本来の「倫理」について、説明できる。	
		2週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		5週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		6週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		7週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		8週	【前期中間試験】		
	2ndQ	9週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		10週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		11週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		12週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		13週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		14週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		15週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		16週	【答案返却時間】		
後期	3rdQ	1週	イスラム教	イスラム文化と現代の関係について、その概要を説明できる。	
		2週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	

4thQ	5週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。
	6週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。
	7週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。
	8週	【後期中間試験】	
	9週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	10週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	11週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	12週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	13週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	14週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	15週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	16週	【答案返却期間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前1,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後9,後10,後11
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11

			技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
			技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
			科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。			3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15	
異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。			3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15	
それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。			3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語 I	
科目基礎情報							
科目番号	1131G01		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4			
開設学科	一般教養		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	4			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	矢崎 満夫						
到達目標							
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用し、学級になじむ							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル		
到達目標1	学生生活に必要な日本語の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常である程度使用できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		2週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		3週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		4週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		5週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		6週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		7週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		8週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
	2ndQ	9週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		10週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		11週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		12週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		13週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		14週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		15週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		2週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		3週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		4週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		5週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		6週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		7週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		8週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
	4thQ	9週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		10週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		11週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		12週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		13週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		14週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		15週	日本語Iの学習	日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語会話 I	
科目基礎情報							
科目番号	1131G02		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4			
開設学科	一般教養		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	4			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	矢崎 満夫						
到達目標							
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用し、学級になじむ							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル		
到達目標1	学生生活に必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常である程度使用できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用する方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		2週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		3週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		4週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		5週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		6週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		7週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		8週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
	2ndQ	9週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		10週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		11週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		12週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		13週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		14週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		15週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		2週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		3週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		4週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		5週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		6週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		7週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		8週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
	4thQ	9週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		10週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		11週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		12週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		13週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		14週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		15週	日本語会話1の学習		日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語作文 I
科目基礎情報					
科目番号	1131G03		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する				
担当教員	矢崎 満夫				
到達目標					
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用し、他教科の学習に活用する					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	学生生活に必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常である程度使用できる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人と共に科目の学習を進めることである。この講義では、必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		2週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		3週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		4週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		5週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		6週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		7週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		8週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
	2ndQ	9週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		10週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		11週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		12週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		13週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		14週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		15週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		16週			
後期	3rdQ	1週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		2週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		3週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		4週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		5週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		6週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		7週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		8週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
	4thQ	9週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		10週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		11週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		12週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		13週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		14週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		15週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他
					合計

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	美術・デザイン
科目基礎情報					
科目番号	1191201		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	美術1 (光村図書)				
担当教員	上月 佳代				
到達目標					
1. 観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。 2. 発想、構想、着想の表現ができる。 3. 材料、用具、技法の理解ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)
到達目標1	観察力、主題の表現、方法を工夫し、独自の世界観を作り出すことができる。		観察力、主題の表現、方法をよく工夫することができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。
到達目標2	発想、構想、着想の表現ができ、独自の世界観を作り出すことができる。		発想、構想、着想の表現がよくできる。		発想、構想、着想の表現ができる。
到達目標3	材料、用具、技法の理解ができ、的確に扱うことができる。		材料、用具、技法の理解がよくできる。		材料、用具、技法の理解ができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	美術・デザインの専門分野で、創造活動を通して、人間・社会・自然で美的体験を豊かにし、美意識を深め、感性やアイデアを表現する。また、情報社会の中で、生活や文化・環境を思考しながら、工学デザインへの一歩として理解し、個性ある能力を高める。				
授業の進め方・方法	【授業時間60時間】				
注意点	美術は自己をしっかり見つめ、自分を表現する。身近な生活の中造形に興味を持ち、楽しむ。与えられた課題は最後まで取り組み、根気や忍耐力を発揮すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1 美術・デザイン の概念	美術・デザインの意識を理解して美術に取り組む心構えができる。	
		2週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		3週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		4週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性) を理解することができる。	
		5週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		6週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		7週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		8週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
	2ndQ	9週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		10週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		11週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		12週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		13週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		14週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		15週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		16週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
後期	3rdQ	1週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		2週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		3週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	

4thQ	4週	4	工業デザイン（立体）	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。
	5週	4	工業デザイン（立体）	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。
	6週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	7週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	8週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	9週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	10週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	11週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	12週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	13週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	14週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	15週	7	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。
	16週	7	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	70	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1112101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修, 中島 一				
到達目標					
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		周囲に合わせて、準備や活動をすることができる。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
授業の進め方・方法	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。 授業時間 60 時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		2週	バドミントン	サーブ、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		3週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		7週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		8週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		10週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	ソフトボール	ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		3週	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	

4thQ	4週	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	5週	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	6週	サッカー・フットサル	サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。
	7週	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。
	8週	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。
	9週	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	10週	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	13週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学2	
科目基礎情報						
科目番号	1112A01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	「改訂版 高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) / 「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学Ⅱ+B」、新版 微分積分 (実教出版)、 「はぎ取り式練習ドリル Ⅱ、Ⅲ」(数研出版)					
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也					
到達目標						
1. 整式の四則演算ができる。 2. 複素数の概念を理解し、その計算ができる。 3. 2次方程式や高次方程式を解くことができる。 4. 微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5. 不定積分と定積分の計算ができる。また定積分を使って図形の面積を求めることができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安			
評価項目1	3次式以上の複雑な整式の四則演算ができる。	整式の四則演算ができる。	簡単な整式の四則演算ができる。			
評価項目2	複素数の複雑な計算ができる。	複素数の概念を理解し、その計算ができる。	簡単な複素数の計算ができる			
評価項目3	複雑な2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や簡単な高次方程式を解くことができる。			
評価項目4	複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。	極限と微分の計算が確実にできる。	簡単な極限と微分の計算ができる。			
評価項目5	複雑な置換積分や部分積分を用いた計算ができる。	置換積分や部分積分を用いた基本的な計算ができる。	簡単な積分の計算ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。					
授業の進め方・方法	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。 【授業時間 1 2 0 時間】					
注意点	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	3次式の展開と因数分解	3次の展開公式を使って、式を展開することができる。また、3次式の因数分解の公式を使って因数分解できる。		
		2週	二項定理とパスカルの三角形	二項定理を使って展開できる。また、パスカルの三角形を書くことができ、対応する多項式の係数を求めることができる。		
		3週	整式の割り算と分数式の四則演算	整式の割り算と、分数式の四則演算ができる。		
		4週	恒等式	恒等式を理解できる。また、恒等式の両辺を比較して係数を求めることができる。		
		5週	複素数とその基本性質およびその四則演算	複素数を理解できる。また、その四則演算ができる。		
		6週	2次方程式の解の公式と判別式	2次方程式の解の公式を使って、虚数解を求めることができる。また、判別式を計算し、2次方程式の解の種類を判別することができる。		
		7週	剰余の定理と因数定理	剰余の定理を使って、整式を整式で割ったときの余りを求めることができる。また、因数定理を使って因数分解することができる。		
		8週	高次方程式の因数分解	因数定理を使って高次方程式を因数分解し、方程式の解を求めることができる。		
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	関数の極限と微分係数	関数の極限を求めることができる。また平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。		
		11週	簡単な関数の微分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の微分ができる。またそれらのグラフ上の接線を求めることができる。		
		12週	積の微分、商の微分	関数fと関数gの積fg、商f/gの微分ができる。		
		13週	合成関数の微分	関数 f と関数gの合成関数である関数f○gの微分ができる。		
		14週	三角関数の微分	三角関数の微分ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。		

後期		15週	対数関数・指数関数の微分	対数関数・指数関数の基本的な計算ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な対数関数・指数関数の微分ができる。
		16週	期末試験返却	
	3rdQ	1週	逆三角関数の微分	逆三角関数の微分ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な逆三角関数の微分ができる。
		2週	分数関数の極限	収束、発散、無限大の概念を理解できる。また、分数式の極限を求めることができる。
		3週	三角関数・対数関数・指数関数の極限	三角関数・対数関数・指数関数を含む極限を計算することができる。
		4週	不定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の不定積分ができる。
		5週	定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の定積分ができる。
		6週	定積分と図形の面積	定積分を使って、図形の面積や2つの曲線の間の面積を求めることができる。
		7週	三角関数の不定積分	三角関数の不定積分ができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	指数関数の不定積分	指数関数の不定積分ができる。
		10週	置換積分法	置換積分を用いた不定積分ができる。
		11週	部分積分法	部分積分を用いた不定積分ができる。
		12週	いろいろな関数の不定積分	分数関数や三角関数の公式を用いた不定積分ができる。
		13週	定積分	多項式関数や三角関数、指数関数の定積分ができる。
		14週	定積分の置換積分法	置換積分を用いた定積分ができる。
15週		定積分の部分積分法	部分積分を用いた定積分ができる。	
16週		期末試験返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	前7
			分数式の加減乗除の計算ができる。	3		
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	前5	
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	前8	
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	前8	
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	前4	
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	前12	
			放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3		
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	後9,後10,後11	
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	後9,後10,後11	
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前10	
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前11	
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前13,後2,後5,後7	
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	前14,後5,後7	
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	後2,後4,後5,後6,後7	
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3		
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前12	
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	前12	
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	前12	
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前12	
不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	後12				
置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3					
定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	後13				
分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3					
簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	後14,後15				

評価割合						
	定期試験	小テスト	課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学B
科目基礎情報					
科目番号	1112A11		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「数学B」服部哲彦ほか著 数研出版/「数学C」坪井俊ほか著 数研出版/「はぎ取り式練習ドリル 数学B」数研出版				
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也				
到達目標					
1. 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、 Σ の計算ができる。 2. ベクトルの基本的な計算ができる。 3. 平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 4. 平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 5. 平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	等差・等比以外の数列の一般項や和を求めることができる。	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる、 Σ の計算ができる。	簡単な等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、簡単な Σ の計算ができる。		
到達目標2	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	簡単なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		
到達目標3	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、簡単な計算ができる。		
到達目標4	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルのなす角を求めることができる。	平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。		
到達目標5	複雑な条件で平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。	平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。	平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を簡単な条件で求めることができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式の概念を学習する。				
授業の進め方・方法	【授業時間 60 時間】				
注意点	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数列と一般項	数列の用語、表記について理解し、数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。	
		2週	等差数列	等差数列の公差、一般項などを理解し、条件から数列の一般項を決定できる。	
		3週	等差数列の和	等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。	
		4週	等比数列	等比数列の公比、一般項などを理解し、条件から数列の一般項を決定できる。	
		5週	等比数列の和	等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の和が求められる。	
		6週	和の記号 Σ	記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。	
		7週	総和の計算	第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。	
		8週	漸化式	漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		
		10週	平面上のベクトル	ベクトルの概念を理解するとともに、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解する。	
		11週	ベクトルの演算	平面上の矢線ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	
		12週	ベクトルの平行とベクトルの分解	ベクトルを同じ向き単位ベクトルを使って表現できる。有向線分で表示されたベクトルを、2つのベクトルの和や差で表現できる。	
		13週	ベクトルの成分	平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		14週	ベクトルの内積(1)	ベクトルの内積を求めることができ、ベクトルのなす角を求めることができる。	
		15週	演習		

		16週	前期期末試験返却	
後期	3rdQ	1週	ベクトルの内積(2)	ベクトルの大きさを内積に置き換えて扱うことができる。
		2週	位置ベクトル	点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している
		3週	ベクトルと平面図形	線分の内分点・外分点を位置ベクトルを用いて表すことができる。
		4週	平面上の直線(1)	平面上の直線の方程式を求めることができる。
		5週	平面上の直線(2)	通る1点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。
		6週	座標による直線の方程式	公式を利用して、直線の方程式を求めることができる。
		7週	円	円の方程式を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	空間の座標	座標空間を理解し、点の座標、2点間の距離を求めることができる。
		10週	空間のベクトル	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。
		11週	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積を求めることができ、平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	ベクトルと空間図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。
		13週	空間内の直線	空間内の直線の方程式を求めることができる。
		14週	空間内の平面	空間内の平面の方程式を求めることができる。
		15週	球	球の方程式を求めることができる。
		16週	学年末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	2点間の距離を求めることができる。	3	後3,後9
				内分点の座標を求めることができる。	3	後3,後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	後4,後5,後13
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	後7
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前5
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	前6,前7
				ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前10,前11,前12,後10
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前13,後10
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前14,前15,後11
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	後4,後5,後11,後13,後14
		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	後13,後14,後15		

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 2
科目基礎情報					
科目番号	1112B02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合物理 1, 2 (数研出版), リードα (数研出版), 物理重要問題集 (数研出版)				
担当教員	園田 昭彦				
到達目標					
物理学を通じて自然現象を系統的, 論理的に考えていく能力を養い, 幅広い自然諸現象を科学的に解明するための物理的な見方, 考え方を身に付ける。 さらに, 物理学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり, 工学の数多くの分野において, 科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベル(可)
運動量の保存	運動量の保存について説明でき, その諸問題について解決する能力がある。		運動量の保存を用いて, 問題を解くことができる。		運動量などの計算ができる。
円運動	円運動と単振動の関係について説明できる。また, これらを利用して, 問題を解決できる能力がある。		円運動を利用して, 問題を解くことができる。		円運動についての基本問題の計算ができる。
万有引力の法則	万有引力の法則を説明でき, 応用問題を取り組むことができる。		万有引力の法則に関する例題や類題を解くことができる。		万有引力の法則に関する基本問題の計算ができる。
熱量の保存	熱量の保存を用いて, 物体の比熱を求めることができ, 熱と仕事の間関係を説明できる能力がある。		熱量の保存を用いて, 物体の比熱を求めることができる。		熱量の保存則を用いて, 基本問題の計算ができる。
熱力学第一法則	熱力学第一法則について説明でき, 気体が状態変化したときの内部エネルギーの変化, 気体がされた仕事, 気体に与えた熱量の関係が説明できる察力がある。		熱力学第一法則に関する諸問題を解くことができる。		熱力学第一法則に関する基本問題の計算ができる。
波の性質	波の波長や振動数などの基本量を用いて, 波を記述でき, 波の基本原則, 諸現象について説明できる能力がある。		波の波長や振動数などの基本量の計算ができ, 波の基本原則, 諸現象についての標準問題を解くことができる。		波の波長や振動数などの基本量の計算ができる。
音	発音体の振動や共振・共鳴, 及び, 音のドップラー効果について説明でき, これらの諸問題を解決できる能力がある。		発音体の振動や共振・共鳴, 及び, 音のドップラー効果についての標準問題を解くことができる。		発音体の振動や共振・共鳴, 及び, 音のドップラー効果についての基本問題を解くことができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが, その成果は基礎科学だけでなく, 工学分野の基礎としても根付いている。 本講義では, 物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い, 幅広い自然現象を科学的に解明するための物理的な見方, 考え方を身につける。 2年生では, 力学, 熱力学, 波動を中心に学習する。				
授業の進め方・方法	講義では理解できないことや疑問に思ったことなどは積極的に質問すること。また, 友達や先輩と積極的に議論を行うこと。予習→講義→復習, このサイクルを大切に, 自分の理解度が定量的に分かるようにしておくこと。本講義では座学だけでなく, 実験も行う。 【授業時間60時間】				
注意点	本科目は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシー)を構成し, プログラムの修了には本科目の修得が必要である。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	運動量と力積	運動量と力積をそれぞれ計算でき, それらの間の関係を使って問題を解くことができる。	
		2週	運動量保存則(1)	運動量保存則を使って直線上の衝突の問題を解くことができる。	
		3週	運動量保存則(2)	運動量保存則を使って平面上の衝突の問題を解くことができる。	
		4週	反発係数	反発係数を計算できる。	
		5週	円運動	角速度を使って変位や速度等を計算できる。	
		6週	円運動の加速度	円運動における加速度や向心力を計算できる。	
		7週	慣性力	慣性力を求めることができ, 遠心力を計算できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	単振動	単振動と円運動の式の間関係を理解できる。	
		10週	単振り子(実験)	ボルダの振り子を使って重力加速度の大きさを測定する。	
		11週	ケプラーの法則	ケプラーの法則について理解している。	

		12週	万有引力の法則	万有引力の法則について理解している。
		13週	熱量の保存（実験）	比熱実験
		14週	気体の法則	気体の法則を用いて気体の状態を計算できる。
		15週	熱と仕事	熱力学第一法則について理解している。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	気体分子の運動	気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。
		2週	気体の状態変化	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる。
		3週	熱機関と効率	熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。
		4週	モンテカルロ法（実験）	確率と面積の関係から円周率を求めることができる。
		5週	波の性質	波の波長、周期、振動数、速さについて説明でき、それらの間の関係を答えることができる。
		6週	横波・縦波	横波と縦波の違いについて説明できる。
		7週	正弦波	正弦波の式を扱うことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	波の重ね合わせの原理	波の重ね合わせの原理と波の独立性を理解できる。
		10週	波の反射と波の干渉	自由端と固定端について説明でき、波の干渉に関する基本問題を解くことができる。
		11週	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
		12週	音の性質	音の性質について説明できる。
		13週	発音体	弦や気柱の固有振動数を求めることができる。
		14週	ドップラー効果（1）	ドップラー効果による振動数変化を計算できる。
		15週	ドップラー効果（2）	ドップラー効果による振動数変化を計算できる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				運動の法則について説明できる。	3	
				静止摩擦力がはたらくている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3					
単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3					
等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3					

		熱	万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3		
			万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3		
			原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3		
			時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3		
			物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3		
			熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3		
			動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3		
			ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3		
			気体の内部エネルギーについて説明できる。	3		
			熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3		
			エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3		
			不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3		
			熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3		
			波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	
		横波と縦波の違いについて説明できる。	3			
		波の重ね合わせの原理について説明できる。	3			
		波の独立性について説明できる。	3			
		2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3			
		定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3			
		ホイヘンスの原理について説明できる。	3			
		波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3			
		弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3			
		気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3			
		共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	3			
		一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3			
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
				熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
				波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
化学(一般)	化学(一般)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3			
		気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3			

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 2
科目基礎情報					
科目番号	1112D02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高等学校 化学基礎 (第一学習社)、高等学校 化学 (第一学習社)、フォロアアップドリル化学・化学基礎 (数研出版)、化学図録 (数研出版)				
担当教員	山田 洋平, 上田 康平, 大谷 卓				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 構成原子間の電子移動により酸化還元反応が進むことを理解し、酸化還元反応の量的な計算ができる。 2. 身近な電池の仕組みを理解し、各電極上で進行する反応を記述できる。 3. 電気分解により各電極上で進行する反応を記述できる。 4. 与えられた条件から熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。 5. 反応速度の定義を学び、反応速度式で記述することができる。 6. 基本的な炭化水素を記述、分類できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
到達目標1	酸化数を正確に決定できる。酸化反応、還元反応を別々に立式し、それらを足し合わせることができる。様々な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化数を決定できる。酸化反応、還元反応を別々に立式し、それらを足し合わせることができる。基礎的な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化数がおおよそ決定できる。半反応式が与えられれば、全反応式を書ける。酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算が少しはできる。
到達目標2	様々な電池 (ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池) の仕組みをすべてそらんじて説明できる。		ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池のうち2・3種の電池の仕組みをそらんじて説明できる。		単元の復習をすれば、ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池のうち2・3種の電池の仕組みをそらんじて説明できる。
到達目標3	電気分解により起こる反応を記述できる。また、反応の量的な計算が正確にできる。		電気分解により起こる反応を記述できる。電気分解における量的な計算が7割程度できる。		選択肢を与えられれば、電気分解により起こる反応をおおよそ正しく選択できる。電気分解における量的な計算が5割程度できる。
到達目標4	熱化学方程式を立式できる。エンタルピー図と連立方程式の両解法を用いて反応熱の計算が正確にできる。		熱化学方程式を立式できる。エンタルピー図と連立方程式の両解法を使い分けて、反応熱の計算を実行できる。		吸熱、発熱反応を区別できる。基礎レベルであれば、エンタルピー図から情報を読み取れる。反応熱の計算ができる。
到達目標5	反応速度の測定結果から反応速度式が記述できる。反応速度と濃度、温度、触媒の関係を説明することができる。アレニウス式を用いて、反応速度定数と活性化エネルギーの関係を説明することができる。		反応速度の測定結果から反応速度式が記述できる。反応速度と濃度、温度、触媒の関係を説明することができる。		活性化エネルギーを含む反応経路の図を見て、反応の進行状況に関する情報を読み取れる
到達目標6	アルカン・アルケン・アルキン・シクロアルカンなど炭化水素の分類・命名ができる。構造異性体・立体異性体の概念を説明できる (分子模型を組み立てられる)。飽和/不飽和炭化水素を用いた反応について、構造式を書ける。官能基を含む有機化合物 (アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸) について、構造式を書ける。		単元を軽く復習すれば、アルカン・アルケン・アルキン・シクロアルカンなど炭化水素の分類・命名ができる。構造異性体・立体異性体の概念を説明できる (分子模型を組み立てられる)。飽和/不飽和炭化水素を用いた反応について、構造式を書ける。官能基を含む有機化合物 (アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸) について、構造式を書ける。		単元を復習すれば、基本的な炭化水素の命名、記述であればできる。構造式を見て一部の官能基を識別できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	講義は理科総合 (1年) での学習内容をふまえて進めていく。理解が十分でない内容は必ず復習をして、授業には集中して取り組むこと。本科目は数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシー) を構成し、プログラムの修了には本科目の修得が必要である。				
授業の進め方・方法	講義と演習を中心に進めていく。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	酸化還元反応1	酸化還元反応を水素原子の移動・酸素原子の移動・電子の移動の観点から説明できる。酸化数の変化から、酸化された物質、還元された物質を決定できる。	
		2週	酸化還元反応2	酸化数の変化から、酸化された物質、還元された物質を決定できる。酸化剤と還元剤の半反応式をつくることができる。また、それらを足し合わせることで全反応式を立てることができる。	
		3週	酸化還元反応3	酸化剤・還元剤の強さに関する概念を説明できる。酸化還元滴定を用いた量的関係について計算できる。	

後期	2ndQ	4週	酸化還元反応4	金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けして説明できる。 この考え方をを用いて起こり得る酸化還元反応を推測することができる。	
		5週	酸化還元反応5	酸化還元反応に関するまとめ。総復習。	
		6週	電池1	電池の基本的な原理を説明できる。 ダニエル電池・ボルタ電池の原理を説明できる。	
		7週	電池2	鉛蓄電池・燃料電池の原理を説明できる。	
		8週	中間試験		
		9週	電池3・電気分解1	電池分野のまとめ。電気分解の原理を説明できる。	
		10週	電気分解2	反応系を見て、電極材料と水溶液中に存在する分子やイオンを列挙できる。演習問題を解くことができる。	
		11週	電気分解3	電極材料と水溶液の情報から、電極上で起こる反応を記述できる。	
	12週	電気分解4	電気分解の応用例（NaCl水溶液の電気分解・電解精錬）を説明できる。		
	13週	電気分解5	電気分解における量的関係の計算ができる。		
	14週	反応熱と熱化学方程式1	熱化学方程式の表記ルールを説明できる。 基本的な熱化学方程式を書くことができる。		
	15週	反応熱と熱化学方程式2	基本的な熱化学方程式を書くことができる。		
	16週	前期末試験			
	後期	3rdQ	1週	反応熱と熱化学方程式3	反応熱、ヘスの法則を駆使して、反応熱に関する問題を解くことができる。
			2週	反応熱と熱化学方程式4	反応熱、結合エネルギー、ヘスの法則を駆使して、反応熱に関する問題を解くことができる。
			3週	化学反応の速さ1	反応速度に影響を与える因子を説明できる。 反応速度の定義について説明できる。
4週			化学反応の速さ2	過酸化水素を用いた反応速度実験について、原理を理解し、測定結果をグラフ化したり、反応の速さに関する情報を求めることができる。	
5週			化学反応の速さ3	反応速度式を立てることができる。	
6週			化学反応の速さ4	反応の速さに関するまとめ	
7週			化学平衡1	化学平衡の概念を説明できる。濃度・圧力・温度変化と平衡移動の関係性について説明できる。	
8週			中間試験		
4thQ		9週	化学平衡2	ハーバーボッシュ法について、ルシャトリエの原理を用いて説明できる。	
		10週	有機化合物1	飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		11週	有機化合物2	飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。	
		12週	有機化合物3	飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造、性質を説明できる。	
		13週	有機化合物4	代表的な構造式を見て、官能基を見つけることができる。	
		14週	有機化合物5	官能基を持つ物質の合成法や反応について記述することができる。	
		15週	有機化合物6	官能基を持つ物質の合成法や反応について記述することができる。	
		16週	後期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	
			洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	
			酸化還元反応について説明できる。	3	
			イオン化傾向について説明できる。	3	
			金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3	
			ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	
			鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	
			一次電池の種類を説明できる。	3	
			二次電池の種類を説明できる。	3	
			電気分解反応を説明できる。	3	
			電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	
			ファラデーの法則による計算ができる。	3	
			化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。
			事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	
		試薬の調製ができる。	3		

			代表的な気体発生の実験ができる。	3	
			代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語総合
科目基礎情報					
科目番号	1112G01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				
担当教員	坪井 泰士				
到達目標					
1.情報の収集・分析・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。 2.文学的な文章を表現に即して読み味わい、説明できる。 3.論理的な文章について、その論拠の妥当性を判断し、自分の意見を述べるができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安		
到達目標1	文学的な文章を表現に即して読み味わい、自分の考えを加えて適切に説明できる。	文学的な文章を表現に即して読み味わい、適切に説明できる。	文学的な文章を表現に即して読み味わい、説明できる。		
到達目標2	論理的な文章について、その論拠の妥当性を的確に判断し、自分の意見を訴求力をもって述べることができる。	論理的な文章について、その論拠の妥当性を的確に判断し、自分の意見を述べるができる。	論理的な文章について、その論拠の妥当性を判断し、自分の意見を述べることができる。		
到達目標3	情報の収集・分析・整理を適切に行い、論理的な構成、適切な表現スキルにより口頭発表できる。	情報の収集・分析・整理を適切に行い、論理的な構成により口頭発表できる。	情報の収集・分析・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は、文章表現および口頭表現に関する学習・練習を基本とする。また、小説・詩の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、評論読解や漢字学習により理解や表現の力を培う。 授業課題として、授業VTR視聴とレポート(オンラインが中心)を課す。 【学習時間60時間】				
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること(漫画、雑誌、テキストを除く)。 LMSの活用環境を整備しておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、文末表現	シラバスにより到達目標、評価方法・割合、達成基準等を理解する。 文末表現を理解して説明し、使用できる。	
		2週	比喩的修辭	比喩的修辭を理解して説明し、使用できる。	
		3週	その他の修辭	比喩的修辭以外の修辭を理解して説明し、使用できる。	
		4週	まとめ(文末表現、修辭法)	文末表現や修辭法を使用して、読書感想文を執筆できる。	
		5週	設疑法、反語法	設疑法、反語法を理解して説明し、使用できる。	
		6週	小説鑑賞①	『枯野抄』におけるエゴイズムについて考え、エゴイズムの社会における様態を説明できる。	
		7週	小説鑑賞②	小説鑑賞スキルを使用して『枯野抄』を鑑賞し、説明できる。	
		8週	前期中間試験	学習のまとめ	
	2ndQ	9週	小論文①	三段構成、接続の言葉を理解し、説明できる。	
		10週	小論文②	三段構成(第1段の状況説明と設疑・反語法)、接続の言葉を使用して、意見を執筆できる。	
		11週	小論文③	三段構成(第1段の状況説明と設疑・反語法)、接続の言葉を使用して、意見を執筆できる。	
		12週	評論読解①	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。	
		13週	評論読解②	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。	
		14週	評論読解③	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。 その読解にもとづき、三段構成(第1段の状況説明と設疑・反語法)、接続の言葉を使用して意見を執筆できる。	
		15週	評論読解④	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。 その読解にもとづき、三段構成(第1段の状況説明と設疑・反語法)、接続の言葉を使用して意見を執筆できる。	
		16週	中間試験	学習のまとめ	

後期	3rdQ	1週	評論読解⑤	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。 その読解にもとづき、三段構成（第1段の状況説明と設疑・反語法）、接続の言葉を使用して意見を執筆できる。
		2週	評論読解⑥	要約の方法を理解し、それを使用して評論を読解できる。 その読解にもとづき、三段構成（第1段の状況説明と設疑・反語法）、接続の言葉を使用して意見を執筆できる。
		3週	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの特徴を理解し、それを使用してスピーチできる。 スピーチについて相互に助言できる。
		4週	スピーチ構成シート	三段構成（第1段の状況説明と設疑・反語法）、接続の言葉を使用してスピーチ構成シートを執筆できる。
		5週	スピーチ	スピーチ構成シートをふまえ、非言語コミュニケーションを使用してスピーチできる。
		6週	詩の鑑賞①	詩鑑賞スキルを使用して『初恋』を鑑賞できる。
		7週	詩の鑑賞②	詩鑑賞スキルを使用して未学習の詩を鑑賞し、説明できる。
		8週	中間試験	学習のまとめ
	4thQ	9週	CMコピーの分析①	CMコピーに用いられている修辞法を理解し、説明できる。
		10週	CMコピーの分析②	CMコピーに用いられている修辞法を理解し、説明できる。
		11週	CMコピーのプレゼンテーション①	修辞法の働きをふまえ、CMコピーの効果についてプレゼンテーションできる。
		12週	CMコピーのプレゼンテーション②	プレゼンテーションについて相互に助言できる。
		13週	漢字の世界①	漢字の造字法を理解し、それを使用して新しい漢字を創ることができる。
		14週	漢字の世界②	創作した新しい漢字をプレゼンテーションできる。
		15週	学習の振り返り	印象的な学習を整理し、後輩に伝えられる。
		16週	答案返却	学習のまとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前2,前3,前4,前8,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後7,後8,後13,後14,後15,後16
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事ができる。	3	前2,前3,前4,前9,前13,前14,前15,前16,後2,後3,後4,後8,後13,後14,後15,後16
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる事ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前16,後8,後9,後10,後11,後12,後15,後16
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後8,後13,後14,後16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後8,後13,後14,後16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後13,後14,後15,後16

			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後13,後14,後15,後16
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	前6,前7,前14,前15,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	前7,後5,後6,後7,後8,後16
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	前6,前7,後4,後16
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前6,後4,後16
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を实践できる。	2	前6,後4,後16

評価割合

	中間・期末試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	63	0	33	4	0	100
基礎的能力	63	0	33	3	0	99
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	1	0	1

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 2
科目基礎情報					
科目番号	1112H01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	CREATIVE English Communication II, 同準拠予習・授業ノート, WORKBOOK(第一学習社), Word Box Essential, 同学習ノートStage 3(美誠社)				
担当教員	福井 龍太				
到達目標					
<p>1. 200~300語の英文を読んで、重要語句と重要文法事項を意識しながら正確に理解できる。</p> <p>2. 教科書で取り上げた英文題材を聞いて、その内容を理解できるとともに、英文を正確にシャドウイングできる。</p> <p>3. 教科書や語彙集で習得した語彙や文法知識を用いて、文レベルで正確な英語の作文ができる。</p> <p>4. 教科書で取り上げた題材に関連したテーマでしっかりした論理構造を持った小論文を書くことができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル		
評価項目1	200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造を正確に理解し、内容についての質問に完全な英文で答えられる。	200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造をほぼ正確に理解でき、内容についての質問にフレーズレベルまでの英語で答えられる。	200~300語の英文を読んで、その内容や文の構造を3分の2程度は理解でき、内容についての質問にも英語の単語レベルで答えられる。		
評価項目2	既習の英文を聞いてその内容をほぼ完全に理解しながら、標準的な速さでテキストを見ずにシャドウイングできる。	既習の英文を聞いてその内容をほぼ理解しながら、標準的な速さでテキストを見ながら完全にシャドウイングできる。	既習の英文を聞いてその内容の3分の2程度理解はでき、テキストを見ながらなら3分の2程度ならシャドウイングができる。		
評価項目3	教科書や語彙集で習得した語句や英文法をベースに、自分で語句を入れ替えたり補足して自由に文レベルの英作文ができる。	教科書や語彙集で習得した語句や英文法をベースに、指示に従って語句を入れ替えたり補足して英作文ができる。	教科書や語彙集で習得した語句や英文法をベースに、モデル文の語句を一部入れ替えた英作文ができる。		
評価項目4	教科書題材に関連した題材で、自分の意見を含む複数の意見に言及する論理的な小論文を英語で書ける。	教科書題材に関連した題材で、自分の意見を含む論理的な小論文を英語で書ける。	教科書題材に関連した題材で、事実を紹介する論理的な小論文を英語で書ける。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に、教科書の音読を通して英語の発音と自然なリズムと直読直解のスキルを身に付ける。さらに、教科書や語彙集を用いて習得した語句や文法知識を使い、文レベルの英文を作文したり、教科書の読み物に関連した英文エッセイを作成する。				
授業の進め方・方法	主に予習ノートと演習プリントを用いて予習と授業を行う。予習では、新出語句やその他の重要表現を確認し、授業では、文法事項の解説や内容理解の問題演習を行う。その後、音読やシャドウイングを行ってインプットの定着を促進する。単元の章末問題は、グループワークによっても実施する。復習として、復習レポートとワークブックに取り組む。語彙集に関しては、ワークブックを通して自主学習し、小テストや作文演習によって語彙力の定着を図る。				
注意点	<p>1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。</p> <p>2. オリエンテーションで指示するやり方で、十分予習復習と語彙学習を行うこと。</p> <p>3. 特別課題として、長期休暇中に課題を課す。</p> <p>4. 授業計画以外に、頻繁な小テスト、シャドウイングテスト、実力テストのGTECを実施する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス・学習方法の解説	シラバスの内容・を理解する。	
		2週	Lesson 1: Voice for Action	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。	
		3週	Lesson 1: Voice for action	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。	
		4週	Lesson 2: Aren't you sleepy?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。	
		5週	Lesson 2: Aren't you sleepy?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。	

2ndQ	6週	Lesson 3: Becoming Attractive you Your Audience	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	7週	Lesson 3: Becoming Attractive you Your Audience	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	8週	前期中間試験			
	9週	Lesson 4: Are you prepared?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	10週	Lesson 4: Are you prepared?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	11週	Lesson 5: The Era of Beautiful Harmony	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	12週	Lesson 5: The Era of Beautiful Harmony	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	13週	Lesson 6: Actions to Reduce Loss and Waste	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	14週	Lesson 6: Actions to Reduce Loss and Waste	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	15週	Review	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。		
	16週	前期末試験			
	後期	3rdQ	1週	Lesson 7: The Era of Beautiful Harmony	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
			2週	Lesson 7: The Era of Beautiful Harmon	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
			3週	Lesson 8: Power to the People!	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
			4週	Lesson 8: Power to the People!	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
			5週	Lesson 9: Traveling This Beautiful Planet	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 。英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。

4thQ	6週	Lesson 9: Traveling This Beautiful Planet	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	7週	Review	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	8週	後期中間試験	
	9週	Optional Lesson 1: May I Have Your Autograph?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	10週	Optional Lesson 1: May I Have Your Autograph?	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	11週	Optional Lesson 2: Information Please	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	12週	Optional Lesson 2: Information Please	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	13週	Optional Lesson 3: TBA	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	14週	Optional Lesson 3: TBA	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	15週	Review	英文エッセイを精読し重要語句・文法事項を習得する。 英文エッセイを正確にシャドウイングできる。 習得した語句・文法事項を使って文レベルの英作文ができる。 関連テーマで論旨の整った英文エッセイが書ける。
	16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			<p>中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
		英語運用能力の基礎固め	<p>日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。</p>	3	<p>前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p>	3	
			<p>実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。</p>	3	
		英語運用能力向上のための学習	<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。</p>	3	

評価割合				
	試験	小テスト	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	20	30	100
基礎的能力	50	20	30	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語B	
科目基礎情報						
科目番号	1112H11		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	ブレイクスルー総合英語[基本例文ノート付], ブレイクスルー英文法36章と解答, 同ワークブック (美誠社) リスニング問題集 改訂版 ALL EARS STANDARD、同学習ノート, 同解答・解説 (美誠社)					
担当教員	勝藤 和子					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。 3の音声教材の英文のシャドウイングができる。 						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安			
評価項目1	各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 学習した例文と同様のポイントを含む英文を, 文法用語を用いて分析しほぼ正確に説明できる。	各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 学習した例文のポイントを用いて分析し, 8割程度説明できる。	各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 理解すべきポイントを6割程度説明できる。			
評価項目2	学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられなくても文法的に正しい1文単位の簡単な英作文ができる。	学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられなくても, 空所を補う形式で, 文法的にほぼ正しい1文単位の簡単な英作文ができる。	学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられれば, 空所を補う形式で, 文法的にほぼ正しい1文単位の簡単な英作文ができる。			
評価項目3	音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, ほぼ正確にできる。	音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, 8割程度できる。	音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, 6割程度できる。			
評価項目4	音声教材で取り扱う英文において, 複雑な文も単文も練習すれば, ほぼ正確にシャドウイングできる。	音声教材で取り扱う英文において, 単文については, 練習すれば8割程度シャドウイングできる。また, 複雑な文でも6割程度はできる。	音声教材で取り扱う英文において, 単文については, 練習すれば6割程度シャドウイングできる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語Aに引き続き英文法の運用力と速読力をさらに発達させる。英文法の内容を通じて英語基礎力を固め, 英語の4技能 (読む・聞く・書く・話す) を総合的に伸ばす。また, リスニング演習を通して聴解力を向上させるとともに語彙力を増強させる。					
授業の進め方・方法	ALL EARSの学習のノートを, 時間を計測しながら速読し, 内容についての質問に答え, 単語熟語の発音と意味の確認し, 文章全体のシャドウイングを行う。文法は, 文法項目についての講義の後, ブレイクスルー英文法36の一部の問題を用いて演習に取り組む。予習には, 基本例文ノートの一部, 復習には, 復習レポートのほか, ブレイクスルー英文法36ワークブックと基本例文ノートの一部を用いる。					
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 予習・復習用の基本例文ノート, 英文法36章, 同ワークブックを日頃からこつこつとこなして行くこと。 文法の授業内容は, 英文法36章, 自作ノートに書き込んでいくこと。 manabaで実施する小テストは, 毎回期限を守って提出すること。 授業には必ず辞書 (電子辞書可) を持ってくること。 提出物の期限は厳守すること。遅れた場合は受け取らない。 下記授業計画以外にGTEC (外部試験) の受験, ワークブックなどの定期的提出も, 取り組んでもらいます。 					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 分詞 (1)	<ol style="list-style-type: none"> シラバス・学習方法を理解する。 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 		
		2週	分詞 (1) (2) ALL EARS Lesson 1	<ol style="list-style-type: none"> 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。 (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。 		
		3週	分詞 (2) ALL EARS Lesson 2	<ol style="list-style-type: none"> 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。 (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。 		

2ndQ	4週	分詞 (3) ALL EARS Lesson 3	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	5週	接続詞 (1) ALL EARS Lesson 4	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	6週	接続詞 (2) ALL EARS Lesson 5	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	7週	接続詞 (3) ALL EARS Lesson 6	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	8週	復習	
	9週	前期中間試験	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	10週	試験返却と解説 関係詞 (1)	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	11週	関係詞 (2) ALL EARS Lesson 7	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	12週	関係詞 (2) (3) ALL EARS Lesson 8	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
	13週	関係詞 (3) ALL EARS Lesson 9	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。

		14週	関係詞 (4) ALL EARS Lesson 10	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		15週	復習	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		16週	前期末試験返却	
後期	3rdQ	1週	比較 (1) ALL EARS Lesson 12	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		2週	比較 (2) ALL EARS Lesson 13	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		3週	比較 (3) ALL EARS Lesson 14	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		4週	否定 (1) ALL EARS Lesson 15	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		5週	否定 (2) ALL EARS Lesson 16	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		6週	様々な構文 (1)	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		7週	復習	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。 (4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。
		8週	後期中間試験	

4thQ	9週	試験返却と解説 仮定法（1）	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	10週	仮定法（2） ALL EARS Lesson 17	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	11週	仮定法（3） ALL EARS Lesson 18	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	12週	話法（1） ALL EARS Lesson 19	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	13週	話法（2） ALL EARS Lesson 20	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	14週	様々な構文（2）	<p>(1) 様々な構文の概念を理解し、分析し、ほぼ正確に説明できる。</p> <p>(2) (1)の知識を応用して、ほぼ正しい英文（1文単位）を作成できる。</p> <p>(3) 200～250語程度の英文を速読し、必要な情報をほぼ探し出すことができる。</p> <p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
	15週	総復習	<p>(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。</p> <p>(2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。</p> <p>(3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること（ディクテーション）ができる聴解力を身につける。</p> <p>(4) (3)の音声教材の英文のシャドウイングができる。</p>
16週	学年末試験返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力の基礎固め		日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表	その他	合計
総合評価割合	60	30	10	0	0	100
基礎的能力	60	30	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	1112H21		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Stretch 1: Student Book (Oxford)				
担当教員	プロフロント クリストファー				
到達目標					
This course is designed to develop listening and speaking skills for English conversation by providing critical thinking opportunities which enable students to practice using an open-ended lecture format. Knowledge of English vocabulary, expressions and grammar is applied to real life situations. Composition and comprehension activities are also utilized in order to continue developing conversation fluency.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.		Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.		Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.
評価項目2	Students speak their opinions directly and utilize critical thinking skills in English.		Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.		Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.
評価項目3	Students can take notes entirely in English and can present their ideas clearly and concisely.		Students can take notes in Japanese and grasp the main idea of the lecture but not the details.		Students can take notes in Japanese and do not understand the majority of the lecture.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This course focuses on listening and speaking skills for Basic English conversation. Critical thinking opportunities aid students in processing new information and the application of that knowledge is related to real life situations through dialogue practice. Composition and comprehension activities are also utilized.				
授業の進め方・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Develop listening skills and communication strategies using native English conversation. 2. Gain confidence in speaking and listening and perfect composition writing and critical reading skills. 3. Improve communication skills in order to smoothly engage in conversations with foreign people. 4. Engage in cultural awareness and open-mindedness to others using cultural comparisons. 【授業時間60時間】				
注意点	<p>Students will come to class prepared.</p> <p>Students using a cellphone in class equals one tardiness on the first warning.</p> <p>Students will not sleep in the class.</p> <p>Students will be enthusiastic and enjoy themselves.</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course and student introductions	Note-taking skills, writing key words and main ideas	
		2週	Formal self-introduction to peers in a professional setting; politeness	Job Hunting exercise; It's + adj. + infinite; asking for repetition / clarification	
		3週	Paced and timed reading diagnostic	Forms of present tense / review of past tenses	
		4週	Reading skills: Previewing; main idea; etc.	Distinguishing between words with similar meanings	
		5週	Vocabulary quiz, exercises to be arranged	Vocabulary list review	
		6週	Cultural Identity vs. Ethnic Fashions	Purpose of international studies / communication	
		7週	International Advertising exercise	Listening for main ideas and more nuanced details, using an outline, comprehension check	
		8週	Mid-Term Exam		
	2ndQ	9週	Performance check 1		
		10週	Metric versus Non-Metric measurements	Understanding numbers and dates; discussion question, converting large numbers or decimal numbers	
		11週	Village is More Global, Language is More Vital	Modals, prepositions, discussion topics	
		12週	Sociology; Presentation on international tourism	Suffixes; Reduction of "be going to" into "gonna"	
		13週	Vocabulary Quiz; The Science of Smiling Discussion and activity	Making notes using a word web; synonyms	
		14週	Simple present for informal narratives; Participle forms	Simple present-tense third person -s/-es; using the dictionary	
		15週	Sports in our lives Grammar activity	Relative clauses, Gerunds as subjects or objects / Infinitives	
		16週	Final Exam		
後期	3rdQ	1週	Performance check 2		

4thQ	2週	Cross-Cultural Research using Direct/Indirect Speech	Conjunctions "and" and "but"; linking consonants to vowels
	3週	Making inferences and eliminating lies	Develop self-editing strategies
	4週	Writing in a Variety of Rhetorical Modes	Improve reading speed; Recognizing new vocabulary
	5週	What's the Right Thing to Do; Philosophical morality.	Identify references in a text (pronouns/nouns)
	6週	Listening for different opinions; speech analysis	Using eye contact, tone of voice and pauses
	7週	Vocabulary quiz; Verb-noun collocations; Content word stress	Predict development and anticipate ideas; active reading
	8週	Mid-Term Exam	
	9週	Performance check 3	
	10週	Presentation of information from lecture notes, relationships between ideas, comparisons and contrasts, cause and effect, persuasion, etc.	Distinguish between the presentation of fact and opinion, context clues (grammatical, semantic, organizational) to deduce meaning
	11週	Vocabulary Quiz; Express and justify an opinion about an important issue or personal experience	Give and seek constructive feedback through peer review
	12週	Reading skills: scanning; patterns of organization; Verb tense for generalizations and hedging	Recognize accurate paraphrases of information from text
	13週	Paced reading: "Plagiarism Lines Blur" Reading skills: Expanding fixations; critical thinking	Use of agreement / counterargument and refutation; use of "should / shouldn't"
	14週	idioms and expressions in cultures throughout the world	"So" and "Such" with adjectives; linking vowel sounds
	15週	The Science of Fear; Psychology related to Identity	Emotional expression; Tell a personal story
	16週	Final Exam	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			英語運用の基礎となる知識	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3		
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3		
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力向上のための学習		英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合						
	試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	50	15	15	10	10	100
基礎的能力	50	15	15	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	公共
科目基礎情報					
科目番号	1112I32	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教養の政治学・経済学 (学術図書出版社)				
担当教員	今田 浩之				
到達目標					
1.民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2.日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3.現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	民主政治を基本理論として社会契約説を説明できる。	社会契約説の基本枠組み全体を説明できる。	社会契約説の基本枠組みの要点を説明できる。		
到達目標2	現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。	現在の政治制度の基本構造の全体を説明できる。	現在の政治制度の基本構造の要点を説明できる。		
到達目標3	現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策の課題を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策の概要を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策の要点を説明できる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、民主政治の在り方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。				
授業の進め方・方法	授業では、まず、民主主義の基本原則を理解したうえで、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。				
注意点	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにしてください。 時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連付けをしましょう。 参考書：日経大予測 2 0 2 3 (日経 B P 日本経済新聞出版)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		2週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		3週	政治各論 「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		4週	「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		5週	「日本国憲法」 国民主権・権力分立	憲法、国民主権、権力分立について説明できる。	
		6週	国民主権・権力分立	憲法、国民主権、権力分立について説明できる。	
		7週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		10週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		11週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		12週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		13週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		14週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		15週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		16週	期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		2週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		3週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		4週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	

		5週	圧力団体・世論	日本の圧力団体、世論について説明できる。
		6週	経済原論	経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。
		7週	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、価格機構について説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	市場経済と価格機構	市場機構、価格機構について説明できる。
		10週	国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		11週	景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
		12週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		13週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		14週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		15週	現代企業論	企業統治、企業の社会的責任について説明できる。
		16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	30	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	歴史総合
科目基礎情報					
科目番号	1112I51		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	明解 歴史総合 (帝国書院)、明解 歴史総合ノート (帝国書院)				
担当教員	今田 浩之, 濱田 香織				
到達目標					
<p>1. 近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。</p> <p>2. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>3. 日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)
到達目標1	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を十分に理解する。		近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。		現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。
到達目標2	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする十分な力を身に付ける。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする力を身に付ける。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする力を身に付ける。
到達目標3	日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を十分に深める。		日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。		日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を持つ。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。				
授業の進め方・方法	学生それぞれが長期的な変化に関わる諸資料を考察し、歴史の事象への問いを持つ。学生が表現した問いを踏まえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史に関する理解を深める。学生が主題を設定して、考察し、表現する。				
注意点	主体的な態度で講義に参加するようにしましょう。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各地域の諸文明 地域の歩み 1部 歴史の扉 1章歴史と私たち 2章歴史の特質と資料	身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解する。身の回りの事象と世界の歴史との結び付きについて考察し、表現することができる。絵画や文書資料、統計データなどを事実と解釈とを区別して読み解くことの重要性や、歴史叙述の特性について理解することができる。	
		2週	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を考察し、理解することができる。「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自らの言葉で表現することができる。	
		3週	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		4週	2部 近代化と私たち 2章 欧米諸国における近代化	市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を考察し、理解することができる。	
		5週	2部 近代化と私たち 2章 欧米諸国における近代化	市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関りを考察し、自らの言葉で表現することができる。市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響や課題について、追究することができる。	
		6週	2部 近代化と私たち 3章 近代化の進展と国民国家形成	国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について、資料を考察し、理解することができる。	
		7週	2部 近代化と私たち 3章 近代化の進展と国民国家形成	国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自らの言葉で表現することができる。国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		8週	中間試験	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	
	2ndQ	9週	2部 近代化と私たち 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を考察し、理解することができる。	

		10週	2部 近代化と私たち 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、自らの言葉で表現することができる。欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		11週	2部 近代化と私たち 5章 近代化が進む日本と東アジア	明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を考察し、理解することができる。	
		12週	2部 近代化と私たち 5章 近代化が進む日本と東アジア	明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自らの言葉で表現することができる。明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		13週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応	国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を考察し、理解することができる。	
		14週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応	第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の政治参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		15週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2章 国際協調と大衆社会の広がり	ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を考察し、理解することができる。	
		16週	期末試験返却	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	
	後期	3rdQ	1週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2章 国際協調と大衆社会の広がり	新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自らの言葉で表現することができる。ヴェルサイユ体制に基づく国際社会の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			2週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3章 日本の行方と第二次世界大戦	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関りに着目しながら、資料を考察し、理解することができる。
			3週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3章 日本の行方と第二次世界大戦	ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自らの言葉で表現することができる。世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			4週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4章 再出発する世界と日本	冷戦構造の形成と、国際連合を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解することができる。
			5週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4章 再出発する世界と日本	国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、自らの言葉で表現することができる。大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			6週	4部 グローバリ化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下の緊張と緩和の経緯と、その中で日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を考察し、理解することができる。
			7週	4部 グローバリ化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自らの言葉で表現することができる。
			8週	中間試験	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。
		4thQ	9週	4部 グローバリ化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
10週			4部 グローバリ化と私たち 2章 多極化する世界	冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を考察し、理解することができる。	
11週			4部 グローバリ化と私たち 2章 多極化する世界	各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自らの言葉で表現することができる。	
12週			4部 グローバリ化と私たち 2章 多極化する世界	冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
13週			4部 グローバリ化と私たち 3章 グローバリ化のなかの世界と日本	冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を考察し、理解することができる。	
14週			4部 グローバリ化と私たち 3章 グローバリ化のなかの世界と日本	グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自らの言葉で表現することができる。	
15週			4部 グローバリ化と私たち 3章 グローバリ化のなかの世界と日本	冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
16週			期末試験返却	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	

			近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
			帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
			第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1132G01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する				
担当教員	矢崎 満夫				
到達目標					
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語の基礎と応用を学び、それを日常で使用し、学級になじむ					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	学生生活に必要な日本語の基礎と応用を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎と応用を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎と応用を学び、それを日常である程度使用できる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語の基礎と応用を学び、それを日常で使用する方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
	2ndQ	9週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週			
後期	3rdQ	1週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
	4thQ	9週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語Ⅱの学習	日本語の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他
					合計

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語会話 II
科目基礎情報					
科目番号	1132G02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する				
担当教員	矢崎 満夫				
到達目標					
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語会話の基礎と応用を学び、それを日常で使用し、学級になじむ					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	学生生活に必要な日本語会話の基礎と応用を学び、それを日常で十分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎と応用を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎と応用を学び、それを日常である程度使用できる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語会話の基礎と応用を学び、それを日常で使用する方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
	2ndQ	9週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週			
後期	3rdQ	1週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
	4thQ	9週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語会話IIの学習	日本語会話の基礎と応用・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他
					合計

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語作文Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	1132G03		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教養		対象学年	2			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	矢崎 満夫						
到達目標							
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用し、他教科の学習に活用する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル		
到達目標1	学生生活に必要な日本語作文の基礎と応用を学び、それを日常で十分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎と応用を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎と応用を学び、それを日常である程度使用できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人と共に科目の学習を進めることである。この講義では、必要な日本語作文の基礎と応用を学び、それを日常で使用方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		2週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		3週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		4週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		5週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		6週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		7週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		8週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
	2ndQ	9週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		10週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		11週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		12週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		13週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		14週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		15週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		2週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		3週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		4週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		5週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		6週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		7週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		8週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
	4thQ	9週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		10週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		11週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		12週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		13週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		14週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		15週	日本語作文Ⅱの学習	日本語作文の基礎と応用・日常で使用方法を学ぶ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1113101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修, 中島 一				
到達目標					
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		練習やゲームに参加することができる。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
授業の進め方・方法	前期・後期の第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 60時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
	2ndQ	9週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

4thQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	体育大会(後期)	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分
科目基礎情報					
科目番号	1113A01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「新版 微分積分」岡本和夫 実教出版, 「改訂版チャート式数学Ⅲ」数研, 「練習ドリル数学Ⅲ」数研, 「新版 微分積分 演習」実教出版				
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 定積分を用いて面積・体積を求めることができる。 2. 累次積分の計算ができる。 3. 偏微分の計算ができる。 4. 1階微分方程式を解くことができる。 5. 2階微分方程式を解くことができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	定積分を用いてやや複雑な図形の面積・体積を求めることができる。	定積分を用いて標準的な図形の面積・体積を求めることができる。	定積分を用いて基本的な図形の面積・体積を求めることができる。		
到達目標2	やや複雑な累次積分の計算ができる。	標準的な累次積分の計算ができる。	基本的な累次積分の計算ができる。		
到達目標3	やや複雑な偏微分の計算ができる。	標準的な偏微分の計算ができる。	基本的な偏微分の計算ができる。		
到達目標4	やや複雑な1階微分方程式を解くことができる。	標準的な1階微分方程式を解くことができる。	基本的な1階微分方程式を解くことができる。		
到達目標5	やや複雑な2階微分方程式を解くことができる。	標準的な2階微分方程式を解くことができる。	基本的な2階微分方程式を解くことができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では微分法および積分法についての理解を深め、関数の解析、図形の計量に応用できる知識と技能を修得する。また偏微分、重積分の基本的な考え方を理解し、計算力を養う。				
授業の進め方・方法	教科書を基にして、例題を解説したのち関連する問題演習を行う。併せて、ドリル・チャート・Workbookを用いて計算練習を行う。 【授業時間60時間】				
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験だけでなく、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分法の復習	微分の計算ができる。積・商の微分の公式を使うことができる。合成関数の微分ができる。	
		2週	積分法の復習	定積分・不定積分の基本的な計算ができて。	
		3週	積分法の応用Ⅰ	定積分を用いていろいろな図形の面積や回転体の体積を求めることができる。	
		4週	積分法の応用Ⅱ	定積分を用いて曲線の長さを求めることができる。	
		5週	いろいろな不定積分Ⅰ	三角関数の有理式の不定積分を求めることができる。	
		6週	いろいろな不定積分Ⅱ	無理関数の不定積分を求めることができる。	
		7週	まとめ		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	広義積分	広義積分を求めることができる。	
		10週	累次積分	累次積分を求めることができる。	
		11週	累次積分とその応用	いろいろな累次積分を求めることができる。	
		12週	累次積分と順序交換	累次積分の積分順序の交換ができ、重積分の計算ができる。	
		13週	累次積分と順序交換とその応用	累次積分の積分順序の交換ができ、いろいろな重積分の計算ができる。	
		14週	2重積分と座標変換	1次変換と極座標変換を用いて重積分の計算ができる。	
		15週	2重積分と座標変換とその応用	1次変換と極座標変換を用いていろいろな重積分の計算ができる。	
		16週	まとめ		
後期	3rdQ	1週	偏微分係数・偏導関数	偏微分係数と偏導関数を求めることができる。	
		2週	極値問題	極値の判定条件を用いて、極値を求めることができる。	
		3週	二変数関数の極値問題	偏微分と極値の判定条件を用いて、二変数関数の極値を求めることができる。	

4thQ	4週	無限級数とテイラー展開	無限級数を求めることができる。また三角関数や指数関数のテイラー展開を求めることができる。
	5週	変数分離形微分方程式	変数分離形微分方程式を解くことができる。
	6週	同次形微分方程式	同次形微分方程式を解くことができる。
	7週	まとめ	
	8週	中間試験	
	9週	1階線形微分方程式	定数変化法を用いて1階線形微分方程式が解ける。
	10週	2階微分方程式	階数降下法を用いて基本的な2階微分方程式が解ける。
	11週	2階微分方程式	階数降下法を用いていろいろな2階微分方程式が解ける。
	12週	定数係数同次線形微分方程式 I	特性方程式を用いて基本的な定数係数同次線形微分方程式が解ける。
	13週	定数係数同次線形微分方程式 II	特性方程式を用いていろいろな定数係数同次線形微分方程式が解ける。
	14週	定数係数非同次線形微分方程式 I	特殊解が多項式または指数関数のとき定数係数非同次線形微分方程式が解ける。
	15週	定数係数非同次線形微分方程式 II	特殊解が三角関数のとき定数係数非同次線形微分方程式が解ける。
	16週	まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	後4	
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	前1	
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	前13	
			分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	前5,前6,前9	
			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	前3	
			簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	前4	
			簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	前7	
			2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	後1	
			合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	後1,後13	
			簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	後12	
			偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	後2,後3	
			2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	前10,前11,前12,前13	
			極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	前14,前15,後6	
			2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	前15	
			微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	後5,後6	
			簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	後9	
			定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	3	後12,後13	
簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	3	後4				
1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3	後4				
オイラーの公式を用いて、複素数変数の指数関数の簡単な計算ができる。	3	後4				

評価割合

	定期試験	小テスト	課題	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	線形代数
科目基礎情報					
科目番号	1113A12		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「新版 線形代数 改訂版」(実教出版), 「新版 線形代数 演習 改訂版」(実教出版)				
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也, 遠藤 健太				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義を理解し、行列の和・差・実数倍、行列の積を求めることができる。 2. 掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。 3. 行列式の性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。 4. 1次変換の定義を理解し、1次変換を表す行列を求めることができる。 5. 行列の固有値・固有ベクトルを求めて、対角化ができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	複雑な行列の和・差・実数倍、行列の積を求めることができる。	行列の和・差・実数倍、行列の積を求めることができる。	簡単な行列の和・差・実数倍、行列の積を求めることができる。		
到達目標2	掃き出し法により、正方行列の正則性を判定できる。	掃き出し法や行列を用いて連立方程式を解くことができ、逆行列を求めることができる。	掃き出し法により連立方程式を解くことができる。		
到達目標3	行列式の性質を利用して行列式の値の計算ができる。	行列式の値の計算ができる。	簡単な行列式の値の計算ができる。		
到達目標4	1次変換による簡単な図形の外像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができ、1次変換による簡単な図形の像を求めることができる。	基礎的な1次変換を行列で表すことができる。		
到達目標5	正方行列の累乗を対角化を利用して計算することができる。	2次と3次の正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができ、それを用いて対角化できる。	2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、工学への応用で重要な役割を果たす行列と行列式の計算およびその応用を学習する。				
授業の進め方・方法	教科書を基に例題の解説や計算方法を説明し、関連する問題演習を行う。 【授業時間60時間】				
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強はもちろん重要であるが、平常の小テストの勉強、提出物なども努力を怠らないこと。 3. 課題など提出物は提出期限を厳守すること。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	行列の加法・減法・実数倍	行列を理解し、加法・減法・実数倍の計算ができる	
		2週	行列の乗法	行列の積の計算学できる	
		3週	行列の演算	行列の加法・減法・実数倍・積を含んだ計算が	
		4週	逆行列	2次正方行列の逆行列を求めることができる	
		5週	転置行列	転置行列を理解し、対称行列、交代行列、直交行列が判定できる。	
		6週	掃き出し法(1)	掃き出し法を用いて連立1次方程式を解くことができる。	
		7週	掃き出し法(2)	連立方程式の不能を判定し、不定の場合の解を求めることができる。	
		8週	演習	行列の様々な演算ができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		
		10週	階数・逆行列	掃き出し法を用いて、行列の階数、逆行列を求めることができる。	
		11週	行列式	行列式を理解し、2次、3次の行列式の値を求めることができる。	
		12週	行列式の性質	行(列)操作を用いて行列式の値を求めることができる。	
		13週	行列式の性質	やや複雑な、行(列)操作を用いて行列式の値を求めることができる。	
		14週	文字を含む行列式	文字を含む行列式を因数分解することができる。	
		15週	演習		
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	行列式の展開	行列式の行(列)展開を用いて、行列式の値を求めることができる。	
		2週	行列の積の行列式	行列の積の行列式を理解することができる。	
		3週	行列式と逆行列	余因子を求めて逆行列を求めることができる。	

4thQ	4週	行列式と連立1次方程式	クラメールの公式を用いて連立方程式の解を求めることができる。
	5週	演習	行列, 行列式の様々な計算ができる。
	6週	1次変換	1次変換を理解し, 行列で表すことができる。
	7週	合成変換と逆変換	合成変換, 逆変換を表す行列を求めることができる。
	8週	後期中間試験	
	9週	1次変換と図形	図形の1次変換による像を求めることができる。
	10週	固有値・固有ベクトル	固有値, 固有ベクトルを理解し, 求めることができる。
	11週	固有値・固有ベクトル	3次正方行列の固有値, 固有ベクトルを求めること学べる。
	12週	行列の対角化	固有値・固有ベクトルを計算し, 対角化できる。
	13週	対称行列の対角化	対称行列を直交行列を用いて対角化できる。
	14週	対角化の応用	対角化することにより, 行列の累乗が求められる。
	15週	演習	行列, 行列式の様々な計算ができる。
	16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	
			逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	
			行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	
			線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
			合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	
			平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 3	
科目基礎情報						
科目番号	1113B01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 2 (数研)					
担当教員	松尾 俊寛					
到達目標						
<p>電磁気：クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を説明できる。また、電流が磁場を生み出すことを説明でき、簡単な場合について磁場の強さを計算できる。電磁誘導などの電気と磁気が絡み合う現象についての理論を説明できる。</p> <p>量子論：光や電子の粒子性と波動性を説明でき、ボーアの原子模型から離散スペクトルを計算できる。</p> <p>微分積分を用いた力学：微積分を用いて力学や電磁気学に現れる諸量を表し、基本的な問題を扱うことができる。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	
電磁気	<p>クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を理解し、法則を数式を用いて説明することができる。それらに基づいて応用問題の解決に利用できる。</p> <p>電流が磁場を生み出すことを理解し法則を数式で説明できる。磁気に関する基礎的な現象を法則にもとづいて計算できる。</p>		<p>電気に関する基礎的な現象を説明でき、クーロンの法則や電場、電位などの基本的概念を公式で表し、問題解決に運用できる。</p> <p>電流が磁場を生み出すことを説明でき公式を数式で表すことができる。それを用いて簡単な場合について磁場の強さを計算できる。</p>		<p>電気に関する基礎的な現象をあげることができ、クーロンの法則や電場などの基本的概念を説明できる。</p> <p>電流が磁場を生み出すことを理解し、磁気に関する基礎的な現象を説明できる。</p>	
量子論	<p>光や電子の二重性を説明でき、基本的な公式を用いて問題解決に応用できる。ボーアの理論を理解し、離散スペクトルが現れることを説明できる。</p>		<p>光や電子の粒子性・波動性を説明でき、基本的な公式を運用できる。ボーアの理論から離散スペクトルを計算できる。</p>		<p>光や電子の粒子性・波動性を説明できる。ボーアの量子条件を説明できる。</p>	
微分積分を用いた力学	<p>力学の基本法則を微積分を用いて表すことができ、公式の導出に適用できる。また種々の典型的な問題解決に応用できる。</p>		<p>微分積分を用いて力学の問題に関する基本的な扱いができる。</p>		<p>力学に現れる諸量や公式を微分積分の言葉で表すことができる。</p>	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は現代科学技術のあらゆる分野の基礎になっている。本講義では、物理学の学習を通して自然現象を系統的・論理的に考える力を養い、広く自然の諸現象を科学的に説明、応用するための物理的な見方、考え方を身につける。3年では、おもに電磁気学と量子論の基礎を学ぶ。また、微分積分を用いた力学、電磁気学の扱い方について初等的な内容の学習をおこなう。					
授業の進め方・方法	授業は、小テスト（前回の復習）、講義による説明（新しく学ぶ内容）、問題演習（学んだ内容の確認）で構成します。 【授業時間60時間】					
注意点	前期中間試験は実施しません。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	静電気力	クーロンの法則により電荷間に働く力を計算できる		
		2週	電場	電荷がつくる電場を説明できる		
		3週	電位	電場の位置エネルギーとして電位を説明できる		
		4週	コンデンサー	コンデンサーの電気容量を説明できる		
		5週	電流	荷電粒子の運動の総体として電流を説明できる		
		6週	ジュール熱と電力	電流のマイクロモデルからジュール熱が説明できる		
		7週	磁場の性質と電流の作る磁場	電流の作る磁場を計算できる		
		8週	電流が磁場から受ける力	電流が磁場から受ける力を計算できる		
	2ndQ	9週	ローレンツ力 1	磁場中を運動する荷電粒子が受ける力を説明できる		
		10週	ローレンツ力 2	ホール効果やサイクロトロンの問題を解くことができる		
		11週	電磁誘導の法則 1	電場や磁場が変化するときの現象を説明できる		
		12週	電磁誘導の法則 2	誘導起電力とエネルギーについて説明できる		
		13週	電磁波	電場と磁場の変化によって電磁波が生じることを説明できる		
		14週	光の性質	光の性質について説明できる		
		15週	光の干渉・回折	光の干渉や回折の基本問題を解くことができる		
		16週	期末試験返却			
後期	3rdQ	1週	陰極線と電子	電子の比電荷を説明できる		
		2週	ミリカンの実験	電気素量の測定実験の内容を説明できる		
		3週	光量子説	アインシュタインの光量子説を説明できる		
		4週	X線の波動性と粒子性	X線の波動性とブラッグ条件、粒子性とコンプトン効果を説明できる		

4thQ	5週	物質波	ドブロイの物質波を説明できる
	6週	原子の構造	ラザフォードの原子模型を説明できる
	7週	ボーアの理論	ボーアの理論によりエネルギー準位の計算ができる
	8週	後期中間試験	
	9週	微分積分を用いた力学 1	速度や加速度のような基本的な量を微分や積分を用いて表すことができる
	10週	微分積分を用いた力学 2	運動方程式を微分方程式の形で表すことができる
	11週	微分積分を用いた力学 3	仕事や力積を積分の形で表すことができる
	12週	微分積分を用いた力学 4	万有引力や静電気力による位置エネルギーを積分を用いて導出できる
	13週	微分積分を用いた力学 5	単振動や円運動を微分積分を用いて扱うことができる
	14週	微分積分を用いた力学 6	微分方程式の簡単な例について解くことができる
	15週	CBT試験	
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	速度と加速度の概念を説明できる。	3		
			直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3		
			等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3		
			平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3		
			物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	前13,前14	
			平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3		
			自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3		
			水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3		
			物体に作用する力を図示することができる。	3		
			力の合成と分解をすることができる。	3		
			重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3		
			フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3		
			質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3		
			慣性の法則について説明できる。	3		
			作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3		
			運動方程式を用いた計算ができる。	3		
			簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	前15	
			運動の法則について説明できる。	3		
			静止摩擦力がはたらいっている場合の力のつりあいについて説明できる。	3		
			最大摩擦力に関する計算ができる。	3		
			動摩擦力に関する計算ができる。	3		
			仕事と仕事率に関する計算ができる。	3		
			物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3		
			重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3		
			弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3		
			力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3		
			物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3		
			運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3		
			運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3		
			周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3		
			単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3		
			等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3		
			万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3		
			万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3		
			波動	自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	
				光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	
波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3					
電気	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	前1			
	電場・電位について説明できる。	3	前2			

			クーロンの法則が説明できる。	3	前1
			クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気を求めることができる。	3	前1
			オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	3	前3
			抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。	3	前3
			ジュール熱や電力を求めることができる。	3	前4
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3
				熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3
				波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3
				光に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3
				電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3
			電子・原子に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト演習	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	CBT試験	合計
総合評価割合	60	15	10	5	10	100
基礎的能力	40	15	10	5	10	80
専門的能力	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語総合	
科目基礎情報						
科目番号	1113G01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)					
担当教員	坪井 泰士, 錦織 浩文					
到達目標						
1. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。 2. 類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。 3. ビジネス敬語の基礎を理解し、使用できる。						
ループリック						
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1	他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて適切な表現スキルにより説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを適切に整理し、深化させて説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させて説明できる。	
到達目標2	類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に効果的に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に適切に活用できる。		類義語・対義語・常用漢字・故事成語を理解し、思考や表現に活用できる。	
到達目標3	ビジネス敬語の基礎を理解し、即応的に適切に使用できる。		ビジネス敬語の基礎を理解し、適切に使用できる。		ビジネス敬語の基礎を理解し、使用できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法	授業は、表現に関する実践を基本とする。また、社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、社会的データの活用や漢字学習により理解・表現の力を培う。 授業課題として、授業VTR視聴とレポート（オンラインを含む）を課す。 【授業時間30時間】					
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	ガイダンス 情報の信頼性	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。 情報の信頼性について、実例を挙げて説明できる。			
	2週	情報の収集と分類	ブレイン・ストーミング法とKJ法とを用いて、情報（アイデア）を収集し整理できる。			
	3週	スピーチ	非言語表現に留意して使用して、スピーチできる。			
	4週	プレゼンテーション①	四段構成を使用して、意見を執筆できる。			
	5週	プレゼンテーション②	表題・グラフ・考察からなるプレゼンテーション構成シートを作成できる。			
	6週	プレゼンテーション③	構成シートを使用して、プレゼンテーションできる。			
	7週	プレゼンテーション④	リモートによるブレインストーミングの留意点を具体的に説明できる。			
	8週	故事成語、四字熟語、漢字とかな	故事成語や四字熟語の内容を、実社会と結びつけて説明できる。漢字やかなの成り立ちを説明できる。			
	9週	短歌	短歌の基礎を理解し作成できる。			
	10週	俳句・川柳	俳句・川柳の基礎を理解し作成できる。			
	11週	ビジネス敬語（慣用表現・クッション言葉）	ビジネス敬語の基礎（慣用表現・クッション言葉）を理解し実践できる。			
	12週	ビジネス敬語（電話対応基礎）	ビジネス敬語の基礎（電話対応基礎）を理解し実践できる。			
	13週	ビジネス敬語（クレーム対応）	ビジネス敬語の基礎（クレーム対応）を理解し実践できる。			
	14週	通信文	通信文の基本を理解し作成できる。			
	15週	記録（報告書）	報告書の基本を理解し作成できる。			
	16週	答案返却	学習のまとめ			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前9, 前10, 前11, 前16

			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前6,前7,前9,前10,前11
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前6,前7
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前4,前5,前9,前10,前11,前15
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前1,前4,前8,前9,前10,前11,前15,前16
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15,前16
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15,前16
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前4,前5,前8,前9,前10,前11,前15
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前2,前8,前9,前10,前11,前15
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前2,前7,前8,前9,前10,前11,前15
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前8,前9,前10,前11,前15

評価割合

	中間・期末試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	40	0	50	10	0	100
基礎的能力	40	0	50	5	0	95
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	5	0	5

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 3	
科目基礎情報						
科目番号	1113H01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Inside Science in English I (SEIBIDO) / Hyper Listening Plus Intermediate 3rd Edition					
担当教員	勝藤 和子, 谷中 俊裕, 谷川 奈緒子					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学分野の基礎的な概念についてのビデオを視聴し内容が把握できる。 2. 基本的な科学分野やリスニング教材で使われている重要語句を習得する。 3. 基本的な科学分野やリスニング教材で使われている文法事項を理解し、使うことができる。 4. リスニング力の向上を図るディクテーションやリスニングのテスト形式に慣れ、戸惑うことなく問題に取り組むことができる。 						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	
評価項目1	科学分野の基礎的な概念についての書かれたビデオを視聴し内容を80%正確に把握できる。		科学分野の基礎的な概念についてのビデオを視聴し内容を60-80%程度把握できる。		科学分野の基礎的な概念についてのビデオを視聴し、60%程度内容が把握できる。	
評価項目2	基本的な科学分野やリスニング教材で使われている重要語句を80%正確に聴き取り、習得している。		基本的な科学分野やリスニング教材で使われている重要語句を60-80%程度聴き取り、習得している。		基本的な科学分野やリスニング教材で使われている重要語句を60%程度聴き取り、習得している。	
評価項目3	基本的な科学分野やリスニング教材で使われている文法事項を80%正確に理解し使うことができる。		基本的な科学分野やリスニング教材で使われている文法事項を60-80%理解し、使うことができる。		基本的な科学分野やリスニング教材で使われている文法事項について、60%程度理解でき、使うことができる。	
評価項目4	ディクテーションやリスニングの標準テストの形式に親しみ、80%近い精度で問題に取り組むことができる。		ディクテーションやリスニングの標準テストの形式に親しみ、60-80%程度の精度で問題に取り組むことができる。		ディクテーションやリスニングの標準テストの形式になれておらず戸惑うが、60%程度の精度で問題に取り組むことができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	科学分野の基礎的な概念についてのビデオを視聴し、語彙・文法・表現について学習します。その後、語彙や文法事項の演習を行い、理解と実践力を高めます。また、リスニング教材を用いて、標準テストの形式に慣れながら、その対策を行います。リスニング教材で用いられる語彙や文法、表現についての学習します。					
授業の進め方・方法	科学分野の基本概念についてのビデオを視聴し、読解演習を行います。授業や予復習に際しては、ワークブック・補助プリントを併用し、ビデオに使われた語彙や文法事項を確認し、英語の総合的運用能力の向上を目指します。自然の速度に近いリスニング演習を行い、その内容を確認し、理解します。					
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. 教科書の語句・語彙集の語句について適宜小テスト、課題自習プリントを課す。 3. 提出物の提出期限は厳守すること。 					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Orientation Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 1	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		2週	Inside Science Lesson 1 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 2	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		3週	Inside Science Lesson 1 (2) Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 3	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		4週	Inside Science Lesson 2 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 1	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		5週	Inside Science Lesson 2 (2) Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 5	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		6週	Inside Science Lesson 3 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 2	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		7週	Inside Science Lesson 3 (2) Review 1	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		8週	Inside Science Lesson 5 (1) Quiz 3	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
	2ndQ	9週	[First term mid term examination]			
		10週	Inside Science Lesson 5 (2) Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 7	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		11週	Inside Science Lesson 7 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 4	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		
		12週	Inside Science Lesson 7 (2) Hyper Listening Plus Intermediate Lesson 9	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。		

後期		13週	Inside Science Lesson 8 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 5	Lesson 10	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		14週	Inside Science Lesson 8 (2) Review 2		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		15週	Quiz 6		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文を学習します。
		16週	[First term final examination]		
	3rdQ	1週	Inside Science Lesson 9 (1) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 11	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		2週	Inside Science Lesson 9 (2) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 12	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		3週	Inside Science Lesson 10 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 7	Lesson 13	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		4週	Inside Science Lesson 10 (2) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 14	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		5週	Inside Science Lesson 11 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 8	Lesson 15	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		6週	Inside Science Lesson 11 (2) Review 3		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		7週	Quiz 9		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		8週	[Second term mid term examination]		
	4thQ	9週	Inside Science Lesson 13 (1) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 16	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		10週	Inside Science Lesson 13 (2) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 17	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		11週	Inside Science Lesson 14 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 10	Lesson 18	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
		12週	Inside Science Lesson 14 (2) Hyper Listening Plus Intermediate	Lesson 19	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。
13週		Inside Science Lesson 15 (1) Hyper Listening Plus Intermediate Quiz 11	Lesson 20	到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
14週		Inside Science Lesson 15 (2) Review 4		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
15週		Quiz 12		到達目標の1から4について、読解演習、構文・表現演習、速読演習、英作文、リスニングを学習します。	
16週		[Final examination]			

モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			<p>中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
			<p>中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>
	英語運用能力の基礎固め	<p>日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。</p>	3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>	
<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。</p>		3			
<p>説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。</p>		3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>		
<p>平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。</p>		3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>		
<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。</p>		3			
<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p>		3	<p>前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15</p>		
<p>実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。</p>		3			

		英語運用能力向上のための学習	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
--	--	----------------	---	---	--

評価割合

	定期試験	小テスト	課題	発表	受講態度	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英作文	
科目基礎情報						
科目番号	1113H31		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	【前期】 A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST (成美堂) TOEIC TEST 必ずでる単スピードマスター (Jリサーチ出版) 【後期】 TOEIC® L&R TEST へのファーストステップ—改訂新版— (成美堂) TOEIC TEST 必ずでる単スピードマスター (Jリサーチ出版)					
担当教員	藤井 浩美, 山田 真穂, 福井 龍太					
到達目標						
1. 授業で扱ったTOEICに頻出する語彙・表現を理解し運用できるようになる。 2. 授業で扱ったTOEICに頻出する文法事項や構文を理解し運用できるようになる。 3. 様々なテーマに関する情報や自分の意見を英語で的確に表現できるようになる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル			
到達目標1	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。			
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。			
到達目標3	テーマに沿った100語程度の英作文をし、自分の意見を的確に伝えられる。	テーマに沿った50~60語程度の英作文をし、自分の意見を的確に伝えられる。	自分の意見を簡単な英語で的確に伝えることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	TOEIC L&R の実践形式の問題演習を通して語彙力・文法力・聴解力・読解力を総合的に向上させ、TOEICスコア400点の達成を目指す。 また、単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。					
授業の進め方・方法	TOEIC対策用のテキストおよび語彙集を使った演習形式の授業である。 【授業時間60時間】					
注意点	授業には必ず辞書を携行し、積極的に活用すること。 TOEIC TEST 必ずでる単スピードマスター (Jリサーチ出版) は通年使用する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション / 語彙力確認テスト ライティング演習	授業の目的、到達目標、学習方法を理解する。 各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		2週	Unit 1 Listening Section/スピードマスター(1~20) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		3週	Unit 1 Reading Section /スピードマスター(21~40) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		4週	Unit 1 確認テスト / Unit 2 Listening Section/ スピードマスター(41~60) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		5週	Unit 2 Reading Section/ スピードマスター(61~80) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		6週	Unit 2 確認テスト / Unit 3 Listening Section / スピードマスター(81~100) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		7週	Unit 3 Reading Section/ スピードマスター(101~120) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。		
		8週	前期中間試験/ スピードマスター(ここまでの総復習 & 241~270)			

2ndQ	9週	Unit 4 Listening Section / スピードマスター (121~140) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	10週	Unit 4 Reading Section/ スピードマスター (141~160) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	11週	Unit 4 確認テスト / Unit 5 Listening Section / スピードマスター(161~180) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	12週	Unit 5 Reading Section / スピードマスター (181~200) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	13週	Unit 5 確認テスト / Unit 6 Listening Section / スピードマスター(201~220) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	14週	Unit 6 Reading Section / スピードマスター (221~240) ライティング演習	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	15週	前期期末試験/ スピードマスター(ここまでの総復習 & 271~300)	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。 単語集の英文を利用し、英語の語彙力や構文力を高める。
	16週	前期期末試験返却	
3rdQ	1週	オリエンテーション Unit 7 Listening Section 英単語課題提出	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	2週	Unit 7 Reading Section 単語小テスト① スピードマスター (361-392)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	3週	Unit 7 確認テスト Unit 8 Listening Section 単語小テスト② スピードマスター (393-420)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	4週	Unit 8 Reading Section 単語小テスト③ スピードマスター (421-452)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	5週	Unit 8 確認テスト Unit 9 Listening Section 単語小テスト④ スピードマスター (453-480)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	6週	Unit 9 Reading Section 単語小テスト⑤ スピードマスター (481-512)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	7週	Unit 9 確認テスト 中間試験を前に特別演習 単語小テスト⑥ スピードマスター (513-540)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	8週	後期中間試験	
4thQ	9週	試験返却・解説 Unit 10 Listening Section	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	10週	Unit 10 Reading Section 単語小テスト⑦ スピードマスター (541-572)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	11週	Unit 10 確認テスト Unit 11 Listening Section 単語小テスト⑧ スピードマスター (573-600)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	12週	Unit 11 Reading Section 単語小テスト⑨ スピードマスター (601-632)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	13週	Unit 11 確認テスト Unit 12 Listening Section 単語小テスト⑩ スピードマスター (633-664)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。
	14週	Unit 12 Reading Section 単語小テスト⑪ スピードマスター (665-696)	TOEIC演習問題を用いて英文の基本的な形式を学習することで、目的に応じた文章の書き方について学習し、実際に書くことができる。

後期

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	1113I41		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新詳地理(帝国書院)/新詳高等地図(帝国書院)				
担当教員	今田 浩之,宮本 寛和				
到達目標					
<p>1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について系統地理的に理解できる。</p> <p>2. 現代世界を構成する各地域を地誌的に考察し、多様な特色を持っていることを理解できる。</p> <p>3. 地理的に考察する意義や有用性に気づき、地理的な見方や考え方を身につけられる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル (可)	
到達目標1		自然環境と人間生活のかかわりと地域性について、地理的事象から課題を設定し、追究できる。	自然環境と人間生活のかかわりと地域性を系統地理的に理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	自然環境と人間生活について、個別の事象のみ説明できる。	
到達目標2		現代社会の各地域に関する資料や情報を地誌的に追究する技能を身につけ、まとめることができる。	現代社会の各地域について、多様な特色があることを理解し、それらの知識を身につけて説明できる。	現代社会の各地域について、特定の国・項目についてのみ説明できる。	
到達目標3		現代世界の多様性や地域性をとらえる視点や方法を考察し、系統地理・地誌の両面から説明できる。	地理的に考察する意義と有用性に気づき、現代世界と日本を概観し、地理的事象について説明できる。	地図を見て、現代社会の各地域の位置と地形のみ説明できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する。				
授業の進め方・方法	講義形式での授業をつつして、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
注意点	都道府県名や主要国名、首都名などは地理学習の基本です。地図帳を開く習慣を身につけてください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地理情報と地図、地図の活用	地図でとらえる現代世界について、地図化のメリットや地図化してわかることを考察し、地図化の技能を習得している。	
		2週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		3週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		4週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		5週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		6週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		7週	自然環境	地形および気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を大観し、それらの知識を身につけている。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		10週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		11週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		12週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		13週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		14週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		15週	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察できる。	
		16週	期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	
		2週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。	

4thQ	3週	人口、村落・都市	村落・都市の立地や発達・機能に関する資料や情報を系統地理的に追究する技能を身につけている。
	4週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて関心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	5週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて関心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	6週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて関心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	7週	生活文化、民族・宗教	衣食住の差異と社会のかかわりについて関心を高め、それらの多様性や地域性をとらえる視点や方法を身につけている。
	8週	中間試験	
	9週	現代世界の諸地域	世界の諸地域の多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	10週	現代世界の諸地域	世界の諸地域の多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	11週	現代世界の諸地域	世界の諸地域の多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	12週	現代世界の諸地域	世界の諸地域の多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	13週	現代世界の諸地域	世界の諸地域の多様性について地誌的に理解するとともに、地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身につけている。
	14週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	15週	現代世界と日本	日本が抱える地理的な諸課題を認識し、解決の方向性を考察できる。
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	1133G01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	THE GREAT JAPANESE 30の物語 人物で学ぶ日本語					
担当教員	三好 晴子					
到達目標						
目的: 「語彙を増やす」「使える文法・表現を増やす」「読み書きできる漢字を増やす」 到達目標: 一程度の長さの文章を読んで内容を正しく理解することができる。また、読んだ感想を適切な長さの文章にすることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
到達目標1	内容が細部に渡って正しく理解できる。	内容が正しく理解できる。	内容がほぼ正しく理解できる。			
到達目標2	言葉・文法・漢字を正しく使用し、感想を適切な長さの文章にすることができる。	感想を適切な長さの文章にすることができる。	感想を文章にすることができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	著名な日本人の生き方や考え方について書かれた文章内の「言葉」「文法・表現」「漢字」を学び、その文章の読解を行う。 その他、基本的な「文法・表現」の復習を行ったり、レポート作成時に使用する日本語を紹介したりする時間も設ける。					
授業の進め方・方法	著名な日本人の生き方や考え方について書かれた文章の中にある「言葉」「文法・表現」「漢字」について学習した後、読解を行い、最後に感想文を書いて発表する。					
注意点	毎回、授業の最初に「復習プリント」あり。(この「復習プリント」は小テストとして扱う) 定期試験は行わない。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・自己紹介文作成	時間内に自己紹介文が作成できる		
		2週	自己紹介文の間違い直しと清書	時間内に清書ができる		
		3週	読む前に・本文音読	本文の漢字の読み方を全て覚える		
		4週	言葉の確認・内容確認①	本文のだいたいの内容を把握する		
		5週	文法・表現	学習した文法・表現を使って文が作れる		
		6週	文法・表現	学習した文法・表現を使って文が作れる		
		7週	文法・表現	学習した文法・表現を使って文が作れる		
		8週	文法・表現	学習した文法・表現を使って文が作れる		
	2ndQ	9週	本文の読解	意味を理解しながら読み進めることができる		
		10週	本文の読解	意味を理解しながら読み進めることができる		
		11週	本文の読解	意味を理解しながら読み進めることができる		
		12週	内容確認②・考えをまとめよう	本文の内容に関する質問に答えることができる		
		13週	感想文作成	時間内に感想文が作成できる		
		14週	感想文の間違い直しと清書	時間内に清書ができる		
		15週	感想文の発表と意見交換	発表内容について意見交換ができる		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語会話Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	1133G02		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	三好 晴子					
到達目標						
目的: 身に付けた言葉や表現が発話時に正しく使えるようにする。(誤用を減らす)						
到達目標: 知っている言葉や表現を使い、何かを紹介したり、意見交換をしたりすることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	言いたいことが相手に充分伝えられる。		言いたいことが相手に伝えられる。		言いたいことがほぼ相手に伝えられる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	あるテーマについて紹介を行ったり意見交換を行ったりする。 "Shadowing"の時間も設ける。					
授業の進め方・方法	あるテーマについての紹介を行い、紹介を聞いた者は「疑問に思ったこと」「感じたこと」「考えたこと」等を伝え、意見交換を行う。(テーマはオリエンテーションで決定) 紹介や意見交換の中にあつた誤用を正す。					
注意点	毎回、授業の最初に復習プリントあり。(この復習プリントは小テストとして扱う) 定期試験は行わない。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション・5分間スピーチ「好きなモノ・コト」		制限時間いっぱい話す	
		2週	テーマ①		積極的に発言する・誤用を正す	
		3週	テーマ①		積極的に発言する・誤用を正す	
		4週	テーマ①		積極的に発言する・誤用を正す	
		5週	テーマ①		積極的に発言する・誤用を正す	
		6週	テーマ①		積極的に発言する・誤用を正す	
		7週	テーマ②		積極的に発言する・誤用を正す	
		8週	テーマ②		積極的に発言する・誤用を正す	
	4thQ	9週	テーマ②		積極的に発言する・誤用を正す	
		10週	テーマ②		積極的に発言する・誤用を正す	
		11週	テーマ②		積極的に発言する・誤用を正す	
		12週	テーマ③		積極的に発言する・誤用を正す	
		13週	テーマ③		積極的に発言する・誤用を正す	
		14週	テーマ③		積極的に発言する・誤用を正す	
		15週	テーマ③		積極的に発言する・誤用を正す	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	50	0	100
基礎的能力	0	50	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本事情	
科目基礎情報						
科目番号	1133101	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養	対象学年	3			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材						
担当教員	今田 浩之					
到達目標						
1.日本の憲法や政治に関する仕組と現状を説明できる。 2.日本の歴史や文化に関する特色・独自性を説明できる。 3.日本の経済に関する仕組と現状を説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)			
到達目標1	日本の憲法や政治の仕組と現状について全体的な説明ができる。	日本の憲法や政治の仕組と現状について概要説明ができる。	日本の憲法や政治の仕組と現状について基礎的な説明ができる。			
到達目標2	日本の歴史や文化の特色・独自性について全体的な説明ができる。	日本の歴史や文化の特色・独自性について概要説明ができる。	日本の歴史や文化の特色・独自性について基礎的な説明ができる。			
到達目標3	日本の経済の仕組と現状について全体的な説明ができる。	日本の経済の仕組と現状について概要説明ができる。	日本の経済の仕組と現状について基礎的な説明ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この科目では、日本の現在の状況について、社会科学や人文科学の多様な視点から分析して学習する。					
授業の進め方・方法	授業内容としては、まず、日本の政治の仕組と現状について、日本国憲法を基軸に考察する。次いで、日本の歴史や文化について、主要なテーマを順に取り上げて検討する。そして、日本の経済の仕組と現状に関して考察する。授業方法としては、講義形式を基本とするが、授業中、質問を通じて通じて双方向の対話に努める。配付資料を活用しつつ、動画視聴による学習も取り入れる。					
注意点	日常的に、日本の政治、歴史・文化や経済の状況について主体的に関心を持つようにすること。 参考書：英語で語る日本事情 2020 (ジャパントイムズ)					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション	シラバスを確認して学習計画を説明できる。		
		2週	日本の憲法・政治(1)	大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制を比較分析できる。		
		3週	日本の憲法・政治(2)	国民主権と象徴天皇制について説明できる。		
		4週	日本の憲法・政治(3)	国会、内閣・省庁、裁判所、安全保障について説明できる。		
		5週	日本の憲法・政治(4)	人権状況、社会問題について説明できる。		
		6週	日本の歴史・文化(1)	貴族の時代、武士の時代について説明できる。		
		7週	日本の歴史・文化(2)	日本的家族のあり方や衣食住の変容について説明できる。		
	8週	探究・発表(1)	各自で課題設定の上、探究し、概要報告をまとめ、発表できる。			
	4thQ	9週	日本の歴史・文化(3)	祝日、年中行事、信仰などの日本的特色と変容を説明できる。		
		10週	日本の歴史・文化(4)	相撲、剣道、弓道、華道などの日本的特色を説明できる。		
		11週	日本の経済(1)	日本の企業の特徴、日本的経営などを説明できる。		
		12週	日本の経済(2)	日本の労働の特徴、日本的雇用などを説明できる。		
		13週	日本の経済(3)	日本の景気、財政、金融政策などを説明できる。		
		14週	日本の経済(4)	日本経済の変容を促す E S G 経営とエシカル消費を説明できる。		
		15週	探究・発表(2)	各自で課題設定の上、探究し、概要報告をまとめ、発表できる。		
16週		期末試験返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合						
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語総合 1
科目基礎情報					
科目番号	1114H41		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Skills for Academic Success READING CHOICE NEW EDITION NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING				
担当教員	勝藤 和子, 藤井 浩美				
到達目標					
<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を8割以上習得し得る。	社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を6割以上8割未満の正答率で習得し得る。	社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙の習得率が6割に達していない。		
到達目標2	社会的・科学的な話題のパスセージを精読し、その内容を理解して、8割以上の正答率で空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。	社会的・科学的な話題のパスセージを精読し、その内容を理解して、6割以上8割未満の正答率で空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。	社会的・科学的な話題のパスセージを精読し、その内容を理解して、空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられるのが6割に達していない。		
到達目標3	各ユニットで扱っている表現のポイントをよく理解し、応用展開された読み物や図表についての内容理解や作文の設問に、ほぼ正確な文章単位で答えられる。	各ユニットで扱っている表現のポイントをよく理解し、応用展開された読み物や図表についての内容理解や作文の設問に、空所補充の形式で答えることができる。	各ユニットで扱っている表現のポイントの理解が不十分で、応用展開された読み物や図表についての理解や作文の設問に、答えることがほとんどできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的、または科学的な話題を取り扱ったパスセージを通して社会現象や科学技術の基本用語を含む英文の読解力・精読力を高める。教材で使用された語彙や文法の重要事項を習得した上で、各ユニットで扱っている表現や内容のポイントを理解し、与えられた情報 (グラフ、図表など) について説明する英作文に活用することができる。扱われた語彙や表現を用いた応用パスセージについての簡単なCopenhension Quizに答えることができる。				
授業の進め方・方法	<p>1. 学生は、予習としてmanabaの小テストの奇数番号の課題 (テキスト本冊のVocabulary、コンテンツの「予習」) に授業開始までに時間厳守で解答し提出する。期限までに解答の送信がない学生は該当する自学自習の時間をカウントしない。 また、テキストの Reading Analysis の空所をできる範囲で埋めて、予習しておく。これを怠ると授業が理解しづらいので、必ず行うこと。 2. 授業では、教師がスライドを用いて、予習で取り扱った箇所を解説後、Reading Analysis の内容を精読しながら、空所を埋めていく。 主題についての質問についても解説、解答する。 3. 学生の理解度に合わせて、適宜Reading Skill や Information Recall にも取り組ませ、解説・解答する。 4. 学生は、復習として、manabaの小テストの偶数番号の課題 (コンテンツの「復習」) に解答する。</p>				
注意点	<p>1. 授業には英和辞書 (紙媒体・電子辞書) を持参すること。 2. 本教科は学修単位科目である。【授業時間30時間+自学自習時間60時間】 manabaの小テスト上で課される予習復習課題の提出により自学自習の確認を行うので、期限厳守で提出すること。 manabaの小テストの提出が時間換算で60% (40時間) に満たない者は、未履修となる。 manabaの小テストの点数は、総合成績の20%を占める。 3. 教材の音声自分で聴くことのできる環境を整えておくこと。 4. 小テスト (ペーパーテスト) を定期試験の直前週に実施する。小テスト (ペーパーテスト) は、総合成績の20%を占める。 5. ポートフォリオは、自学自習課題の取り組み状況 (内容) を評価する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション Chapter 1	<p>学習方法についての理解 1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>	

		2週	Chapter 1	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		3週	Chapter 2	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		4週	Chapter 3	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		5週	Chapter 4	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		6週	Chapter 5	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		7週	小テスト (単語&リスニング) 復習	<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>
		8週	【後期中間試験】	
		4thQ	9週	Chapter 6
10週	Chapter 7		<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>	
11週	Chapter 8		<p>1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。</p> <p>2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。</p> <p>3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。</p>	

		12週	Chapter 9	1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。
		13週	Chapter 10	1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。
		14週	Chapter 11	1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。
		15週	小テスト (単語&リスニング) 復習	1. 社会的・科学的な話題のパスセージ (500~600 words 程度) を読み、使われている語彙を習得する。 2. 1.のパスセージを精読し、その内容を理解して空所補充に答え、主題を理解して内容についての質問に答えられる。 3. 各ユニットで与えられたテーマについて応用発展された読み物や図表を理解し、読解問題の質問に答えたり、簡単な英語で自分の意見を表明することができる。
		16週	【学年末試験】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	

			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語特論
科目基礎情報					
科目番号	1134G11		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	プリント等を配布する				
担当教員	錦織 浩文				
到達目標					
1.日本語能力試験N1相当の語彙の意味・使い方を理解し、適切に使用できる 2.学習計画・自己PRについて適切な表現により作文・発表できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル (優)		標準的な到達レベル (良)		最低限の到達レベル (可)
評価項目1	日本語能力試験N1相当の語彙の意味・使い方を理解し、効果的に使用できる		日本語能力試験N1相当の語彙の意味・使い方を理解し、適切に使用できる		日本語能力試験N1相当の語彙の意味・使い方を理解し、使用できる
評価項目2	学習計画・自己PRについて効果的な表現により作文・発表できる		学習計画・自己PRについて適切な表現により作文・発表できる		学習計画・自己PRについて作文・発表できる
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語能力試験N1相当の語彙を学習することを通じて、日本語運用能力を高めることを目的とする。「学習計画」「自己PR」を作文し口頭発表することを通じて、進学・就職等の準備を行う。				
授業の進め方・方法	授業ではプリント等を用いて日本語能力試験N1相当の語彙を学習する。単元ごとに小テストをし、学習内容を確認する。 「学習計画」「自己PR」を作文し、口頭発表する。 【授業時間60時間】				
注意点	本授業は留学生特別授業として行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、自己紹介	授業内容を理解し説明できる / 自己紹介できる	
		2週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		3週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		4週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		5週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		6週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		7週	N1語彙 (いろいろ表現しよう)	N1語彙 (いろいろ表現しよう) の意味・使い方を理解し説明できる	
		8週	小テスト1	学習の確認	
	2ndQ	9週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		10週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		11週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		12週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		13週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		14週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		15週	N1語彙 (副詞)	N1語彙 (副詞) の意味・使い方を理解し説明できる	
		16週	小テスト2	学習の確認	
後期	3rdQ	1週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		2週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		3週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		4週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		5週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		6週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	
		7週	N1語彙 (初級漢字)	N1語彙 (初級漢字) の意味・使い方を理解し説明できる	

4thQ	8週	小テスト3	学習の確認
	9週	文章作成 (学習計画)	学習計画を作文できる
	10週	文章作成 (学習計画)	学習計画を作文できる
	11週	文章作成 (学習計画)	学習計画を作文できる
	12週	文章作成 (自己PR)	自己PRを作文できる
	13週	文章作成 (自己PR)	自己PRを作文できる
	14週	文章作成 (自己PR)	自己PRを作文できる
	15週	発表 (学習計画・自己PR)	学習計画・自己PRを発表できる
	16週	学習のまとめ	学習の確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	50	40	10	0	100
基礎的能力	0	50	40	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1194101		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修, 中島 一				
到達目標					
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。	練習やゲームに参加することができる。		
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。		
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。	活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	教員の指示により、安全に留意することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 30時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週	体育大会	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		6週	体育大会	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		7週	体育大会	(1)参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。	
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。	
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		8週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。	

4thQ	9週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語の語彙・文法 1
科目基礎情報					
科目番号	1194202		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	FULL GEAR FOR THE TOEIC L&R TEST (金星堂)、速読速聴・英単語Core1900 (Z会)				
担当教員	谷川 奈緒子				
到達目標					
1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。 4. TOEICテストにおいて、350～500点以上を獲得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。		TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。		TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。		授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。
到達目標4	TOEICテストにおいて、500点以上を獲得する。		TOEICテストにおいて、400点以上を獲得する。		TOEICスコアが300点以下である。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEIC L&R の実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、500点のTOEICスコア達成を目指す。また、単語・熟語集を用いて、単語や熟語を暗記し、適切に運用できるようになる。				
授業の進め方・方法	TOEIC対策用のテキストを使った演習形式の授業である。毎回の授業に加えて、自習課題でTOEIC受験に備える。 【授業時間30時間】				
注意点	正当な理由のない欠席については、単語テストの追試は実施しない。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Unit 1	授業の目的、到達目標、学習方法を理解する。各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		2週	Unit 2	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		3週	Unit 3	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		4週	Unit 4	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		5週	Unit 5	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		6週	Unit 6	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		7週	Unit 7	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		8週	中間テスト	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
	2ndQ	9週	Unit 8	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		10週	Unit 9	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	
		11週	Unit 10	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。	

	12週	Unit 11	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	13週	Unit 12	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	14週	Unit 13	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	15週	Unit 14	各ユニットの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	16週	テスト返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	20	30	100
基礎的能力	50	20	30	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語の語彙・文法2	
科目基礎情報						
科目番号	1194203		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	BEAT YOUR BEST SCORE ON THE TOEIC L&R TEST ポキャビル重視型TOEIC L&R総合演習・速読速聴・英単語 Core1900 (Z会)					
担当教員	小笠原 麻衣子					
到達目標						
1. TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応することができる。 2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現を理解し、運用できるようになる。 3. 授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を理解し、運用できるようになる。 4. TOEICテストにおいて、400～550点以上を獲得する。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
到達目標1	TOEICの出題傾向、出題形式を把握し、解答時間も考慮しながら適切な対応ができる。	TOEICの出題傾向を把握し、各パートの問題形式に対応できる。	TOEICの出題傾向を把握しておらず、各パートの問題形式に対応できない。			
到達目標2	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の90%以上を暗記し、正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の60%程度を暗記し、ほぼ正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現の暗記が60%未満で運用力が低い。			
到達目標3	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を90%以上理解し、正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文を60%程度理解し、ほぼ正しく運用できる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法事項や構文の理解が60%未満で運用力が低い。			
到達目標4	TOEICテストにおいて、550点以上を獲得した。	TOEICテストにおいて、400点以上を獲得した。	TOEICスコアが400点以下である。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	TOEIC L&R の実践形式の問題演習を通して語彙力、文法力、聴解力、読解力を総合的に向上させ、550点のTOEICスコア達成を目指す。特に語彙に関しては、馴染みのないTOEIC頻出のビジネス関連の用語や表現に繰り返し触れ、しっかり暗記して語彙力を強化する。					
授業の進め方・方法	TOEIC対策用のテキストを使った演習形式の授業である。授業では語彙力、文法力の強化をめざして学習を進めるため、リスニング問題は各自で予習してくる。事前学習として、各チャプターの重要表現(Vocabulary)を音声で聞いて記入し、GRAMMAR REVIEWのページで基本文法の復習をしてから授業に臨むこと。毎回の授業に加えて、自習課題でTOEIC受験に備える。TOEIC IPテスト、TOEIC公開テストを計画的に受験する。【授業時間30時間】					
注意点	正当な理由のない欠席については、小テストの追試は実施しない。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション Chapter1 (語彙ターゲット: 買い物に関する語彙・文法ターゲット: 文型)	教科書の使い方説明、各Chapterの語彙ターゲット、文法ターゲットの説明、後期の目標設定		
		2週	Chapter2,3 (語彙ターゲット: 外食、交通に関する語彙・文法ターゲット: 名詞、接続詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		3週	Chapter4,5 (語彙ターゲット: エンタメ、宿泊施設に関する語彙・文法ターゲット: 知覚動詞、使役動詞、助動詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		4週	Chapter6,7 (語彙ターゲット: 就職、コミュニケーションに関する語彙・文法ターゲット: 助動詞、時制)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		5週	Chapter8,9 (語彙ターゲット: ビジネス交渉、プレゼンテーションに関する語彙・文法ターゲット: 現在完了、前置詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		6週	Chapter10 (語彙ターゲット: ビジネス上の約束に関する語彙・文法ターゲット: 不定詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		7週	Chapter1-10 復習・中間試験対策	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	Chapter11 (語彙ターゲット: 公共施設に関する語彙・文法ターゲット: 仮定法過去)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		10週	Chapter12 (語彙ターゲット: 街に関する語彙・文法ターゲット: 仮定法過去完了)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		11週	Chapter13,14 (語彙ターゲット: 休暇、環境に関する語彙・文法ターゲット: 受動態、動名詞、分詞構文)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		
		12週	Chapter15,16 (語彙ターゲット: 住宅、会議に関する語彙・文法ターゲット: 関係詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。		

	13週	Chapter17,18 (語彙ターゲット: 企業の業績、クレーム処理に関する語彙・文法ターゲット: 比較、名詞、冠詞)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	14週	Chapter19,20 (語彙ターゲット: 広告、宣伝、工場に関する語彙・文法ターゲット: 名詞の数、数量形容詞、強調構文、倒置)	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	15週	Chapter11-20 復習・期末試験対策	各チャプターの問題演習を通して、TOEICの出題傾向を把握し、出題形式に慣れ、各パートの問題形式に対応できるようになる。
	16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ (復習課題)	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	50	30	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	哲学
科目基礎情報					
科目番号	1194601		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	【教科書】 使用しません。適宜、プリント資料を配付します。 【参考書】 高等学校 改訂版 倫理 (第一学習社)				
担当教員	藤居 岳人				
到達目標					
1. 哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 議論用資料作成を通して、自分の主張を明確に文章にまとめることができる。 3. 議論を通して、周囲の意見を認めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標 1	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の詳細を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の概略を踏まえて、説明できる。	哲学上の諸問題に関する基礎的な知識について、講義内容の要点を踏まえて、説明できる。		
到達目標 2	論理に矛盾がなく、十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	十分な分量で自分の主張を議論用資料として文章にまとめることができる。	論理にやや不明瞭な点があるが、自分の主張をある程度明確に文章にまとめられる。		
到達目標 3	議論に主体的にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論にかかわり、周囲の意見を尊重できる。	議論へのかかわりが不十分だが、ある程度周囲の意見を尊重して耳を傾けられる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自分自身もつまづきさまざまな疑問に対して、徹底的に考え抜くことが哲学における基本的態度です。「哲学する」とはどのようなことかについて、西洋と日本の思想を取り上げつつ、講義してゆきます。そして、哲学上の諸問題に関する講義と議論用資料作成を・議論を通して、①それぞれの学生が「哲学する」ことができるように動機づけして、国際人として通用する柔軟な思考を養成します。②それぞれの学生が多様な価値観を認めつつ、自己の確立ができるようになります。				
授業の進め方・方法	基本的に講義形式ですが、年4回議論の時間を予定しています。 【授業時間 6 0 時間】				
注意点	議論のための資料として、適宜、小レポートを提出してもらう予定です。レポートはメール等で受けつけるので、その心づもりをしておいてください。議論は年4回を予定しています。また、講義で述べたことについて定期試験で確認する方針なので、「講義をしっかりと聴く」ことを心がけてほしいと思います。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学」とは?	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		2週	「哲学」とは?	「哲学」と「思想」との相違について、説明できる。	
		3週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。	
		4週	「哲学」「philosophia」の語	「哲学」の語の由来について、説明できる。	
		5週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		6週	「哲学」「philosophia」の語	「philosophia」の語の由来について、説明できる。	
		7週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		8週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
	2ndQ	9週	西洋における哲学上の諸問題 1	デカルトを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		10週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒューム等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		11週	西洋における哲学上の諸問題 2	ロック・ヒューム等を中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		12週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		13週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		14週	西洋における哲学上の諸問題 3	カント・ヘーゲルを中心にした主観客観の一致問題について、説明できる。	
		15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。	
		16週	【答案返却時間】		
後期	3rdQ	1週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		2週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	
		3週	日本における哲学上の諸問題 1	『古事記』を中心にした古代人の思想について、説明できる。	

4thQ	4週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。
	5週	日本における哲学上の諸問題 2	言霊の思想を中心にした古代人の思想について、説明できる。
	6週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
	7週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	8週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	9週	日本における哲学上の諸問題 3	禅の思想・道元を中心に中世人の思想について、説明できる。
	10週	日本における哲学上の諸問題 3	実存主義の思想について、説明できる。
	11週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
	12週	日本における哲学上の諸問題 4	世阿弥を中心に中世人の思想について、説明できる。
	13週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休を中心に近世人の思想について、説明できる。
	14週	日本における哲学上の諸問題 5	千利休ほかを中心に近世人の思想について、説明できる。
	15週	議論	資料作成を通して自分の意見をまとめ、議論を通して周囲の意見を認められる。
	16週	【答案返却時間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	前12,前13,前14
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前7,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前7,前15,後6,後15
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前7,前15,後6,後15	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	32	92
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	8	8

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	1194611		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ガイドブック法学 [改訂版] (嵯峨野書院)				
担当教員	今田 浩之				
到達目標					
1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)
到達目標1	法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の概要について説明できる。		法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の要点について説明できる。
到達目標2	憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論について概要を説明できる。		憲法の基本的人権論、司法審査理論の要点について説明できる。
到達目標3	民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の概要について説明できる。		民法、刑法などの原理・制度の要点について説明できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法	授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。				
注意点	日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。 参考書：法の世界へ 第9版 (有斐閣)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か	社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		2週	法とは何か	社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。	
		3週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		4週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		5週	法の解釈	法の解釈技術について説明できる。	
		6週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		7週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
		8週	裁判の構造	裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。	
	2ndQ	9週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		10週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		11週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		12週	憲法の基本的人権保障	基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。	
		13週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		14週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		15週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		16週	期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		2週	民法	債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。	
		3週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	
		4週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。	

		5週	消費者保護法	特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。
		6週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		7週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
		8週	製造物責任法	製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。
	4thQ	9週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		10週	刑法	罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。
		11週	刑法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
		12週	刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。
13週		刑事訴訟法	適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。	
14週		労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。	
15週		労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。	
16週		期末試験返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	20	0	0	80
専門的能力	10	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理学基礎
科目基礎情報				
科目番号	1194B11	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	物理学講義ノート(ライブラリ理学・工学系物理学講義ノート7), 大学編入試験問題 数学/徹底演習			
担当教員	園田 昭彦			

到達目標

微分積分やテーラー展開の計算ができる。オイラーの公式を使いこなせる。行列・行列式や行列の対角化の計算ができる。線形常微分方程式の一般解を求めることができる。連立常微分方程式の解法が理解できる。連成振動の問題が解ける。偏微分を計算できる。線積分や面積分を計算できる。グリーンの定理を証明できる。勾配・発散・回転の計算ができる。εテンソルを使ってベクトル解析の公式を証明できる。線積分や面積分、体積積分を計算できる。ガウスの発散定理・ストークスの定理を使いこなせる。コーシー・リーマン関係式の計算ができる。コーシーの積分定理を理解している。留数積分ができる。周期的境界条件での連成振動の解を求めることができる。フーリエ展開の計算ができる。フーリエ変換の計算ができる。デルタ関数の性質を理解している。フーリエ変換を使ってデルタ関数の計算ができる。1次元波動方程式の一般解を求めることができる。ポアソン方程式のグリーン関数を求めることができる。簡単な例でのファインマン核を求めることができる。3次元波動方程式のグリーン関数を求めることができる。変分法を理解している。変分法を使って簡単な例を計算できる。群の性質を理解している。su(2)の表現を作ることができる。球面調和関数の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベル(可)
1. 微分と積分	微分や定積分の応用問題を解くことができ、べき級数展開と近似について説明することができる。	微分や定積分の標準問題を解くことができ、解析関数のべき級数展開を計算することができる。	微分や定積分の基本問題を解くことができる。
2. 行列と行列式	行列と行列式の意味を理解し、行列の対角化や固有値を求めることができる。	行列と行列式の標準問題を解くことができる。	行列と行列式の基本的な計算ができる。
3. 常微分方程式	連成振動の問題を解くことができる。	1階微分方程式や2階微分方程式に対応する物理での基本例題を解くことができる。	1階微分方程式や2階微分方程式の基本問題を解くことができる。
4. ベクトル解析	グリーンの定理やガウスの定理、ストークスの定理を論理的に証明でき、物理との対応を説明できる。	線積分や面積分の標準問題を解くことができる。	勾配や発散、回転の基本関係式を導くことができる。
5. 複素関数論	留数積分の計算ができる。	コーシーの積分定理を説明できる。	コーシー・リーマン関係式の計算ができる。
6. フーリエ解析	フーリエ展開やフーリエ変換の応用問題を解くことができ、物理との対応を説明することができる。	フーリエ展開やフーリエ変換の標準問題を解くことができる。	フーリエ展開やフーリエ変換の基本問題を解くことができる。
7. 偏微分方程式	3次元波動方程式をグリーン関数を用いて計算できる。	ポアソン方程式をグリーン関数を用いて計算できる。	1次元波動方程式の一般解を求めることができる。
8. 変分法	変分法を使って量子力学の試行関数を計算できる。	変分法を使って1次元波動方程式を求めることができる。	変分法を説明できる。
9. 群論	su(2)の表現を作ることができる。	so(3)の構造定数を求めることができる。	群の性質を理解している。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	物理学にとって最も重要なことは、物理的な概念であり、数学は単なる道具に過ぎない。しかし、用いられる数学がわからなければ何も前には進まず、物理的概念の把握どころではなくなる。本講義では、物理学に必要な不可欠になる数学を具体例中心に学ぶことを目標にしている。専門的な数学の書物に手を伸ばしても難解な数学用語や厳密な証明が多く、さきに進まない経験をした者もいると考えられる。この講義では厳密な証明などには立ち入らない。演習では大学編入試験の過去問を使用する。
授業の進め方・方法	講義では積極的に発言し、理解できないことや疑問に思ったことなどは質問すること。また、友達や先輩などを捕まえて積極的に議論を行うこと。予習→講義→復習、このサイクルを大切に、自分の理解度が定量的に分かるようにしておくこと。教科書は非常に丁寧に書かれているので、一度自分で教科書を読んで行間を埋められるようにすること。演習問題の解き方などはさまざまな参考書を調べ、自分が理解できる解き方を身につけること。 【授業時間60時間】
注意点	本講義は大学・専攻科に進学を希望する学生を対象としている。それ以外の者でも数学や物理学に興味・関心があり、難しい内容でも根気よくついて行ける学生も対象とする。事前に今まで習った数学と物理の復習は必ずしておくこと。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	--	---------------------------------	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分・積分と複素数	微分積分やテーラー展開の計算ができる。オイラーの公式を使いこなせる。
		2週	行列・行列式と行列の対角化	行列の性質を理解できる。行列式や行列の対角化の計算ができる。
		3週	線形常微分方程式	線形常微分方程式の一般解を求めることができる。
		4週	連立常微分方程式の解法	連立常微分方程式の解法が理解できる。
		5週	連成振動	連成振動の運動方程式を立てて、解を求めることができる。
		6週	2変数関数と偏微分	偏微分を計算できる。
		7週	2次元ベクトル解析の積分	線積分や面積分を計算できる。

後期	2ndQ	8週	中間試験	
		9週	グリーンの定理	グリーンの定理を証明できる。
		10週	勾配・発散・回転	勾配・発散・回転の計算ができる。εテンソルを使ってベクトル解析の公式を証明できる。
		11週	3次元ベクトル解析の積分	線積分や面積分、体積積分を計算できる。
		12週	ガウスの発散定理・ストークスの定理	ガウスの発散定理・ストークスの定理を使いこなせる。
		13週	正則関数	コーシー・リーマン関係式の計算ができる。
		14週	正則関数の積分	コーシーの積分定理を理解している。
		15週	孤立特異点と留数積分	留数積分を求めることができる。
	16週	前期末試験		
	3rdQ	1週	離散的フーリエ変換	周期的境界条件での連成振動の解を求めることができる。
		2週	周期関数とフーリエ展開	フーリエ展開の計算ができる。
		3週	フーリエ変換	フーリエ変換の計算ができる。
		4週	デルタ関数（1）	デルタ関数の性質を理解している。
		5週	デルタ関数（2）	フーリエ変換を使ってデルタ関数の計算ができる。
		6週	1次元波動方程式	1次元波動方程式の一般解を求めることができる。
		7週	ラプラス方程式とポアソン方程式	ポアソン方程式のグリーン関数を求めることができる。
8週		中間試験		
4thQ	9週	シュレーディンガー方程式	簡単な例でのファインマン核を求めることができる。	
	10週	3次元波動方程式とグリーン関数	3次元波動方程式のグリーン関数を求めることができる。	
	11週	変分法の導入	変分法を理解している。	
	12週	変分法の応用	変分法を使って簡単な例を計算できる。	
	13週	対称性と物理	群の性質を理解している。	
	14週	su(2)と表現	su(2)の表現を作ることができる。	
	15週	球面調和関数	球面調和関数の計算ができる。	
	16週	学年末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	100
基礎的能力	30	10	20	0	0	60
専門的能力	40	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育	
科目基礎情報						
科目番号	1195101		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	なし/なし					
担当教員	新井 修, 中島 一					
到達目標						
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)	
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら練習やゲームを工夫し、活動に参加できる。		練習やゲームに参加することができる。	
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。		教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。	
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。					
授業の進め方・方法	第1週目に種目を選択・決定し、半期を通じて該当種目を実施する。準備や運営を自主的に行うことで、生涯スポーツの基礎を身につける。 授業時間 30時間					
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
		2週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		3週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		4週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		5週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		6週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		7週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		8週	種目選択と実践	(1)各種目のルールを理解し説明できる。		
	2ndQ	9週	種目選択と実践	(2)各種目の基本的な個人技能を習得する。		
		10週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		11週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		12週	種目選択と実践	(3)互いに協力し、ゲームを実践できる。		
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	100	100
---------	---	---	---	---	-----	-----

阿南工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語総合2
------------	------	-----------------	------	-------

科目基礎情報			
科目番号	1195211	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教養	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	授業時に配布する		
担当教員	谷中 俊裕, 福井 龍太		

到達目標			
1. 教材(動画及び英文エッセイ)で用いられている英語の語彙・語法を習得する。 2. 英語動画を視聴し、その概要を正確に聴解できる。 3. 英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解できる。 4. 英語でのプレゼンテーションの形式を理解し作成できる。 5. 英語でのディベートの形式や表現を理解し、ディベートでの発話を作文できる。			

ループリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安
評価項目1	教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈でも理解できし、自らの英作文や発話に応用できる。	教材で扱われた語彙・語法を教材以外の類似の文脈の中で正しく理解できる。	教材で扱われた語彙・語法を教材中では正しく理解できる。
評価項目2	3分程度の英語動画を視聴し、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。	3分程度の英語動画を視聴し、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。	3分程度の英語動画を視聴し、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。
評価項目3	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点をまとめることができる。	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、英文での質問に英語の短文で答えることができる。	400語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、選択肢のある英語での質問に答えることができる。
評価項目4	聴衆の理解を助ける魅力的な画像を多く含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。	聴衆の理解を助ける最低限の画像を含む英語でのプレゼンテーションを作成できる。	発表台本のノート欄を備えた英語でのプレゼンテーションを作成できる。
評価項目5	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文でき、口頭でも発話できる。	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解し、ディベート用の英文を作文できる。	英語でのディベートの構成やディベート特有の表現を理解できる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	環境・健康・科学技術などの題材を取り上げた英語動画を視聴しながら聴解演習し、併せて関連エッセイを読解演習する。その過程でポピュラーサイエンス分野特有の語彙・語法に慣れる。また、これらの語彙や語法も利用しながら、自ら調べた内容も補足して、学習分野に関連した英文のプレゼンテーションを作成する。その際には、ディベートを想定した対立する2つの見方を盛り込み、ディベート形式の思考訓練をする。授業時間30時間、自学自習時間60時間
授業の進め方・方法	予習では、重要語句をチェックしながら授業で取り扱う教材のリスニングをしておく。復習では、同じように重要語句をチェックしながら関連分野のエッセイを読んでおく。予習復習は自学自習ノートに記入しておく。授業中は、教科書の設問を利用しながら、復習として学習したエッセイの読解演習、予習しておいた新しい章の聴解演習を行い、語法のキーポイントを確認する。ディベートを想定した内容を盛り込んだ英文プレゼンテーションの作成は、グループ学習によって自学自習の一部として行う。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習課題の提出を実施する。
注意点	1. 英語動画のmp4ファイルを再生できる環境を準備してください。 2. 授業には必ず辞書を持参してください。 3. 予習・復習に必要な語彙のヒントをmanabaに掲載します。プレゼンテーションの提出もmanabaを通して行うので、manabaにアクセスできる環境を準備してください。

授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	--	---------------------------------	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	オリエンテーション	シラバスの内容を理解する。	
	2週	論文リーディング① 単語小テスト①	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
	3週	論文リーディング② 単語小テスト②	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
	4週	論文リーディング③ 単語小テスト③	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
	5週	英語動画リスニング① 単語小テスト④	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
	6週	英語動画リスニング② 単語小テスト⑤	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用	
	7週	これまでの復習と演習問題	これまでの内容に熟達する	
	8週	前期中間試験(口頭試問)		
	2ndQ	9週	試験解説	
		10週	英語動画リスニング③ 単語小テスト⑥	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用
		11週	英語動画リスニング④ 単語小テスト⑦	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用

	12週	英語動画リスニング⑤ 単語小テスト⑧	聴解演習 語彙・語法の理解と作文への応用
	13週	ショートエッセイライティング① 単語小テスト⑨	読解演習 語彙・語法の理解と作文への応用
	14週	ショートエッセイライティング② 単語小テスト⑩	読解問題 語彙・語法の理解と作文への応用
	15週	これまでの復習と演習問題	
	16週	前期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	50	20	0	0	20	10	100
基礎的能力	50	20	0	0	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ドイツ語	
科目基礎情報						
科目番号	1195301		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Imaida und Maeda (2021) Schritt fuer Schritt neu bearbeitete Auflage, Sanshusha.					
担当教員	福井 龍太					
到達目標						
1. 教科書で学ぶ基本的なドイツ語文法の内容を理解し、説明することができる。 2. 教科書で学ぶ基本的なドイツ語表現を活用し、基本的なコミュニケーションが取られる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安			
評価項目1	各単元の基本的なドイツ語文法の内容や構文を理解し、学習した例文と同様のポイントを含む英文を、文法用語を用いて分析しほぼ正確に説明できる。	各単元の基本的なドイツ語文法の内容や構文を理解し、学習した例文のポイントを文法用語を用いて分析し、8割程度説明できる。	各単元の基本的なドイツ語文法の内容や構文を理解し、理解すべきポイントを6割程度説明できる。			
評価項目2	学習したドイツ語文法の内容を応用して、モデル文を与えられなくても文法的に正しい1文単位の簡単なドイツ語作文ができる。	学習したドイツ語文法の内容を応用して、モデル文を与えられなくても、空所を補う形式で、文法的にほぼ正しい1文単位の簡単なドイツ語作文ができる。	学習したドイツ語文法の内容を応用して、モデル文を与えられれば、空所を補う形式で、文法的にほぼ正しい1文単位の簡単なドイツ語作文ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ドイツ語に親しみ、基本的なドイツ語表現を学ぶ。また、ドイツ語特有の文法について理解し、基本的なドイツ語でコミュニケーションがとれるようになる。					
授業の進め方・方法	教科書の各単元の文法事項や単語の意味を調べ、予習して授業に臨むこと。教科書の設問はまず自分の力で考えてみる、ことが重要である。					
注意点	1. 予習・復習をできるだけ欠かさないこと。 2. 授業には、この時間のうちにドイツ語を少しでも広く深く理解するようにする、という強い意志を持って臨むこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション L0 アルファベット、数、挨拶	授業の進め方を確認する。授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		2週	L1 人称代名詞、現在人称変化	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		3週	L1 人称代名詞、現在人称変化	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		4週	L2 名詞の性と格変化・複数	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		5週	L2 名詞の性と格変化・複数	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		6週	L3 ドイツ語の格 (2格・3格)	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		7週	L3 ドイツ語の格 (2格・3格)	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		8週	中間試験	これまでの授業で得た知識を確認する。		
	4thQ	9週	試験返却 規則動詞の現在人称変化	L4 不規	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。	
		10週	L4 不規則動詞の現在人称変化	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		11週	L5 不定冠詞・所有冠詞・否定冠詞	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		12週	L5 不定冠詞・所有冠詞・否定冠詞	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		13週	L6 前置詞・非分離動詞・分離動詞	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		14週	L6 前置詞・非分離動詞・分離動詞	授業内容のドイツ語を理解し、使えるように声に出し、書いて練習する。		
		15週	復習	これまでの授業で得た知識を確認する。		
		16週	期末試験	これまでの授業で得た知識を確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表	その他	
					合計	

総合評価割合	50	20	0	30	0	100
基礎的能力	50	20	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	中国語	
科目基礎情報						
科目番号	1195302	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養	対象学年	5			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	1年生のコミュニケーション中国語 (白水社)					
担当教員	趙 彤					
到達目標						
1.中国の文化と生活に関する基礎的な知識を理解し、最新の中国事情を知る。 2.中国語の発音と基本な文法を理解し、基礎的な日常会話ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(可)			
評価項目1	中国語の社会事情、文化、生活に関することについて興味を持ち、理解できる。	中国の社会事情、文化、生活に関することについてある程度理解できる。	中国の社会事情、文化、生活に関することについて最低限理解できる。			
評価項目2	発音記号を見て、中国語を正しく発音できる。	発音記号を見て、中国語を発音できる。	発音記号を見て、ある程度中国語を発音できる。			
評価項目3	簡単な日常会話が流暢にできる。	簡単な日常会話ができる。	一部の簡単な日常会話ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	中国の社会事情、生活・文化に関する基礎的な知識を理解するとともに、中国語の発音と表現に関する基礎知識、及び基礎的な会話を学習する。中国の最新の経済発展を授業の所々に紹介し、等身大の中国を理解する。					
授業の進め方・方法	授業は会話に関する学習と練習を基本とする。					
注意点	外国語の勉強が話すことが大事なので、授業中、積極的な態度で声を出すこと。ただし、私語は絶対にやめてください					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンスとオリエンテーション	授業の進め方や評価方法と基準などを説明する。中国に対する理解を深めるために社会事情や文化を紹介する。		
		2週	中国語の基礎：発音(母音) その1	発音記号と四声を使って、中国語の母音を発音できること。		
		3週	中国語の基礎：発音(母音) その2	発音記号と四声を使って、中国語の母音が発音できること。		
		4週	中国語の基礎：発音(子音) その1	発音記号と四声を使って、中国語の子音を発音できること。		
		5週	中国語の基礎：発音(子音) その2	発音記号と四声を使って、中国語の子音を発音できること。		
		6週	自己紹介	「～は～である」を使って自己紹介できること。		
		7週	これは何ですか	疑問文を使って会話ができること。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	これはいかがですか	指示代名詞と簡単な動詞を使えること。		
		10週	買い物	形容詞と量詞の使い方が理解できること。		
		11週	どこにありますか	数字、日付、時刻の表現を使えること。		
		12週	何がありますか	完了形の使い方を習得すること。		
		13週	ホテルにチェックイン	存在の表現を習得すること。		
		14週	何時にいきますか	時間の量の表現を習得すること。		
		15週	予備			
		16週	期末テスト			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ロシア語	
科目基礎情報						
科目番号	1195303	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教養	対象学年	5			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	「基礎からレッスン はじめてのロシア語」 柚木かおり著、ナツメ社					
担当教員	谷中 俊裕					
到達目標						
1. ロシア語の文字と発音・綴り字の規則を習得し、初見のロシア語の単語でもアクセント符号があれば発音できるようになる。 2. 日本の中1修了レベルの英語に相当するロシア語文法・構文・決まり文句を習得し、教科書レベルの文章を正しく音読し理解できるようになる。 3. 2の知識を使って、教科書レベルのロシア語会話文・描写文を作文・発話できるようになる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル			
到達目標1	ロシア語の発音規則に習熟し、始めて見る単語も例外を除いて正しく発音できる	ロシア語の発音規則を習得し、既習の単語を正しく発音できる	ロシア語のアルファベットを正しく読み、教科書の頻出単語なら正しく発音できる			
到達目標2	未習の語についてのヒントがあれば、学習した文法や語彙の知識を応用した簡単なロシア語の文章を音読し理解できる	学習した文法と語彙の知識を用いて、教科書の文章を正しく音読し理解できる。	学習した文法と語彙の知識を用いて、教科書の文章を概ね音読でき理解もできる			
到達目標3	教科書の材料の語句を入れ替えて、ロシア語で会話文や描写文を発話できる。	教科書の材料の範囲で、ロシア語で会話文や描写文を再現できる。	教科書の材料の範囲で、多少のヒントがあれば、ロシア語の最初歩の会話の決まり文句や描写文を再現できる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ロシア語の初級教科書を用いて、発音練習、聴き取り練習、文法演習、読解演習、会話練習を行う。					
授業の進め方・方法	1課分の学習内容がコンパクトにまとめられているので、毎回数課ずつのペースで進みます。予習よりも復習を重んじる授業です。授業中には、発音・会話練習、文法演習を中心に行う。ほぼ毎回復習用課題を課します。					
注意点	授業中の発音・会話練習には積極的に取り組むこと。毎回習う単語をしっかり覚えていくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明 ロシア語を学ぶ意義 ロシア語のアルファベット・ローマ字 最初歩の挨拶	ロシア語のアルファベットが読めるようになる ロシア文字のローマ字で自分の名前が書ける 最初歩の挨拶を口頭で言える		
		2週	発音の規則 調子を尋ねる挨拶 自己紹介 名詞の性と数	ロシア語の発音規則を理解し、初見の単語でもアクセント符号があれば正しく発音できる 調子を尋ねる挨拶と自己紹介の挨拶が口頭で言える 単数主格の名詞の性が見分けられる		
		3週	指示代名詞 「これは～です(か)」の構文 別れと再会の挨拶 感謝の決まり文句	基本的な名詞を使って「これは～です(か)」の作文ができる 別れと再会の挨拶、感謝の決まり文句を口頭で言える		
		4週	人称代名詞 存在の表現、所有の表現	「～は...にある」、「...は～を持っている」の簡単な作文ができる。		
		5週	物の名前 名詞の格変化、所有代名詞	自分や相手の持ち物について話すことができる		
		6週	一般動詞の現在形	習慣を表す「～は...する」、現在進行形的な「～は...している」の簡単な作文が書ける		
		7週	動詞の過去形	過去の出来事について話すことができる		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	中間試験の返却・解説・復習 ロシア文化の紹介	ロシアやロシア文化について自分の選んだテーマでロシア語で簡単な発表をすることができる。		
		10週	過去のこと 過去分詞、現在完了	未来の出来事や予定について話すことができる		
		11週	助動詞的な動詞と述語副詞	できること、やりたいこと、やらねばならないことについて話すことができる		
		12週	命令・依頼 動詞の命令形	丁寧な依頼や命令ができる		
		13週	動詞の対格	「～を」に当たる対格補語を含む簡単な作文ができる		
		14週	対格以外の斜格補語	「～を」相当以外の斜格補語を含む代表的な作文ができる		
		15週	感情や天気を表す述語副詞	天気の表現の簡単な作文や、与格主語を含む簡単な作文ができる		
		16週	期末テスト返却			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	50	0	50	0	0	100
基礎的能力	50	0	50	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	日本語コミュニケーション	
科目基礎情報						
科目番号	1195502		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ(阿南高専)					
担当教員	坪井 泰士					
到達目標						
1. プレゼンテーションスキルを適切に使用できる。 2. ページング、一般化、初頭・親近効果を適切に使用できる。 3. パーソナルスペースを適切に使用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベルの目安(可)	
到達目標1	プレゼンテーションスキルを高度に使用できる。		プレゼンテーションスキルを効果的に使用できる。		プレゼンテーションスキルを適切に使用できる。	
到達目標2	ページング、一般化、初頭・親近効果を高度に使用できる。		ページング、一般化、初頭・親近効果を効果的に使用できる。		ページング、一般化、初頭・親近効果を適切に使用できる。	
到達目標3	パーソナルスペースを高度に使用できる。		パーソナルスペースを効果的に使用できる。		パーソナルスペースを適切に使用できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	社会での具体的な状況を想定したコミュニケーションスキルについて理解を深め、同スキルを向上させることを目的とする。					
授業の進め方・方法	LMSにより、事前・事後学修としてレポート(オンラインを含む、各回4時間相当)を課す。 【授業時間30時間+自学自習時間60時間】					
注意点	LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス プレゼンテーションスキルの確認①: 計測	シラバスにより到達目標、評価方法・割合、達成基準等を理解する。 TVニュース等における複数のプレゼンテーションスキルを計測できる。		
		2週	プレゼンテーションスキルの確認②: 計測	TVニュース等における複数のプレゼンテーションスキルを計測できる。		
		3週	プレゼンテーションスキルの確認③: 効果の説明	TVニュース等における複数のプレゼンテーションスキルの計測をふまえ、その差違(効果)について説明できる。		
		4週	プレゼンテーションスキルの確認④: 効果について討論	TVニュース等における複数のプレゼンテーションスキルの差違(効果)について、具体的に討論できる。		
		5週	プレゼンテーションスキルの向上①: スキルアップ	前講討論をふまえてスキルアップ(プレゼンテーションの実践)できる。		
		6週	プレゼンテーションスキルの向上②: スキルの自己・相互評価と整理	自身のプレゼンテーションを計測して自己評価する。プレゼンテーションについて相互に評価し、さらなる向上に向けてスキルを整理できる。		
		7週	プレゼンテーションスキルの向上③: 実践の工夫	優れたプレゼンターにインタビューし、プレゼンテーションの工夫についてまとめられる。		
		8週	プレゼンテーションスキルの向上④: 実践・説明、口頭試問	これまでの学習成果を実践により明示して説明し、教員による口頭試問に適切に答えられる。		
	2ndQ	9週	ページング、一般化、初頭・親近効果①: 理解	ページング、一般化、初頭・親近効果について説明できる。		
		10週	ページング、一般化、初頭・親近効果②: 実践	ページング、一般化、初頭・親近効果を実践できる。		
		11週	ページング、一般化、初頭・親近効果③: 実践	ページング、一般化、初頭・親近効果を実践できる。		
		12週	パーソナルスペース①: 理解、計測	パーソナルスペースについて理解し、それを計測できる。		
		13週	パーソナルスペース②: 比較、討論	関係性やシチュエーションによるパーソナルスペースの差違について討論できる。		
		14週	パーソナルスペース③: 実践	名刺交換、meeting、会食などの具体的なパーソナルスペースについて実践できる。		
		15週	パーソナルスペース④: 実践	名刺交換、meeting、会食などの具体的なパーソナルスペースについて実践できる。		
		16週	答案返却	学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前6,前7,前10,前16

			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前3,前4,前6,前8,前9,前16
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前1,前2,前8,前16
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前2,前3,前8,前9,前16
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前3,前4,前5,前8,前9,前14,前15,前16
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前5,前8,前9,前14,前15,前16
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前4,前6,前13,前16
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前4,前6,前13,前16
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

評価割合

	中間・期末試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	20	0	60	20	0	100
基礎的能力	10	0	30	10	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	30	10	0	50

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文芸	
科目基礎情報						
科目番号	1195503		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント等を配布					
担当教員	錦織 浩文					
到達目標						
1.日本文学における短歌、俳句、川柳の史的展開を理解し、特徴を説明できる 2.自作の短歌、俳句、川柳を作成できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル (優)		標準的な到達レベル (良)		最低限の到達レベル (可)	
評価項目1	日本文学における短歌、俳句、川柳の史的展開を理解し、特徴を的確に説明できる		日本文学における短歌、俳句、川柳の史的展開を理解し、特徴を説明できる		日本文学における短歌、俳句、川柳の特徴を説明できる	
評価項目2	自作の短歌、俳句、川柳を独自性高く作成できる		自作の短歌、俳句、川柳を独自に作成できる		自作の短歌、俳句、川柳を形式に沿って作成できる	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	授業では日本文学における韻文学、とくに短歌、俳句、川柳の史的展開と特徴について解説する。その内容を踏まえて、授業毎に自作の短歌、俳句、川柳を作成する。最終的に自作集としてまとめ、併せて各種大会に作品を投稿する。					
授業の進め方・方法	教材はプリント等を用いる。これに基づいて日本文学における短歌、俳句、川柳の史的展開と特徴について解説し、その内容を踏まえて短歌、俳句、川柳を作成する。 【授業時間30時間+自学自習時間60時間】					
注意点	創作について相当の時間を費やすのでそれを了解した上で受講すること					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、短歌（上代）の理解と作成	短歌（上代）の特徴を理解しこれを踏まえて短歌をつくる		
		2週	短歌（上代）の理解と作成	短歌（上代）の特徴を理解しこれを踏まえて短歌をつくる		
		3週	短歌（近代）の理解と作成	短歌（近代）の特徴を理解しこれを踏まえて短歌をつくる		
		4週	短歌（現代）の理解と作成	短歌（現代）の特徴を理解しこれを踏まえて短歌をつくる		
		5週	自作短歌まとめ	自作短歌を推敲整理する		
		6週	俳句（近世）の理解と作成	俳句（近世）の特徴を理解しこれを踏まえて俳句をつくる		
		7週	俳句（近代）の理解と作成	俳句（近代）の特徴を理解しこれを踏まえて俳句をつくる		
		8週	前期中間試験	学習の確認		
	2ndQ	9週	答案返却、俳句（現代）の理解と作成	俳句（現代）の特徴を理解しこれを踏まえて俳句をつくる		
		10週	自作俳句まとめ	自作俳句を推敲整理する		
		11週	川柳（古川柳）の理解と作成	川柳（古川柳）の特徴を理解しこれを踏まえて川柳をつくる		
		12週	川柳（現代）の理解と作成	川柳（現代）の特徴を理解しこれを踏まえて川柳をつくる		
		13週	川柳（現代）の理解と作成	川柳（現代）の特徴を理解しこれを踏まえて川柳をつくる		
		14週	自作川柳まとめ	自作川柳を推敲整理する		
		15週	自作集作成	自作の短歌、俳句、川柳をまとめ自作集をつくる		
		16週	答案返却	学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3		
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3		
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3		
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計

総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語日本文化1	
科目基礎情報						
科目番号	1195504		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	高専日本語アビリティ I・II (阿南高専)					
担当教員	坪井 泰士					
到達目標						
1. 日本語諸相を協力して調査し、その特徴をPPTを用いて伝えられる。 2. 適切なプレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキルを考え、自身のスキルを振り返ることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベルの目安(可)	
到達目標1	日本語諸相を協力して適切に調査し、その特徴をPPTを用いて明確に伝えられる。		日本語諸相を協力して適切に調査し、その特徴をPPTを用いて伝えられる。		日本語諸相を協力して調査し、その特徴をPPTを用いて伝えられる。	
到達目標2	適切なプレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキルを考え、自身のスキルの改善点を明確に示すことができる。		適切なプレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキルを考え、自身のスキルの改善点を示すことができる。		適切なプレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキルを考え、自身のスキルを振り返ることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	方言や流行語などの日本語に関心を持ち、他学生との協働をふまえて様態調査をふまえて調査しPPTにまとめて発表する中で、効果的なコミュニケーションについての考えを深め、その伸張へと接続することを目的とする。					
授業の進め方・方法	LMSにより、事前・事後学修としてレポート(オンラインを含む、各回4時間相当)、授業VTR視聴を課す。 【授業時間30時間+自学自習時間60時間】					
注意点	LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	日本語諸相の確認	ブレンストリーミング法・KJ法等を活用し、日本語諸相(方言、流行語など)を確認できる。		
		2週	日本語諸相の調査①: 対象語の選定	日本語諸相の調査対象語を選定できる。		
		3週	日本語諸相の調査②: 調査計画の策定	日本語諸相の調査計画を立てられる(チーム間の共同体制を含む)。		
		4週	日本語諸相の調査③: 調査	日本語諸相を調査する。		
		5週	日本語諸相の調査④: 調査	日本語諸相を調査する。		
		6週	日本語諸相の調査⑤: 調査	日本語諸相を調査する。		
		7週	日本語諸相の調査⑥: 調査	日本語諸相を調査する。		
		8週	日本語諸相の調査⑦: 分析	日本語諸相の調査結果を分析できる。		
	4thQ	9週	日本語諸相の発表①: PPT作成	日本語諸相の調査結果をPPTにまとめられる。		
		10週	日本語諸相の発表②: PPTへの相互助言	日本語諸相の調査結果をまとめたPPTについて、相互助言できる。		
		11週	日本語諸相の発表③: PPTの改善	助言を受けて、日本語諸相の調査結果をまとめたPPTを改善できる。		
		12週	日本語諸相の発表④: 調査発表	日本語諸相の調査結果を、PPTを用いて発表できる。		
		13週	日本語諸相の発表⑤: 調査発表	日本語諸相の調査結果を、PPTを用いて発表できる。		
		14週	日本語諸相の発表⑥: 相互助言	日本語諸相の調査結果の発表について、相互助言できる。		
		15週	プレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキル	プレゼンテーションスキル、話し合い(助言)のスキルを考え、自身のスキルを振り返ることができる。		
		16週	答案返却	学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	後1,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後15,後16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後15,後16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	後1,後3,後4,後5,後6,後7,後16

			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後16
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後9,後15,後16
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後16
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後1,後8,後10,後11,後16
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後1,後8,後9,後16
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後1,後2,後8,後9,後16

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	20	0	45	35	0	100
基礎的能力	20	0	45	20	0	85
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	15	0	15

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語日本文化2	
科目基礎情報						
科目番号	1195505		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教養		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント等を配布					
担当教員	錦織 浩文					
到達目標						
1.日本の昔話・物語について調査し、その原型と異伝の様相を理解し、説明できる 2.昔話・物語の調査を通じて日本的思考性の特徴を把握し、説明できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	
評価項目1	日本の昔話・物語について調査し、その原型と異伝の様相を理解し、独自の解釈を加えて説明できる		日本の昔話・物語について調査し、その原型と異伝の様相を理解し、適切に説明できる		日本の昔話・物語について調査し、その原型と異伝の様相を説明できる	
評価項目2	昔話・物語の調査を通じてその思考性の特徴を把握し、独自の解釈を加えて説明できる		昔話・物語の調査を通じてその思考性の特徴を把握し、適切に説明できる		昔話・物語の調査を通じてその思考性の特徴を説明できる	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本の昔話・物語の原型と異伝の様相を調査し、その結果・考察をパワーポイント等にまとめて報告する。					
授業の進め方・方法	教材はプリント等を用いる。これに基づいて各自が日本の昔話・物語の原型と異伝の様相を調査し、その結果・考察をパワーポイント等にまとめて報告する。 【授業時間30時間】					
注意点	調査・報告書作成について相当の時間を費やすのでそれを了解した上で受講すること					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ①	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		2週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ①	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		3週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ②	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		4週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ②	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		5週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ③	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		6週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ③	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		7週	調査報告書の作成 (1)	昔話・物語に関する調査報告書を作成できる		
		8週	調査報告書の作成 (1)	昔話・物語に関する調査報告書を作成できる		
	4thQ	9週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ④	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		10週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ④	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		11週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ⑤	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		12週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ⑤	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		13週	昔話・物語の原型と異伝 (調査) ⑥	昔話・物語の原型と異伝を調査できる		
		14週	昔話・物語の原型と異伝 (報告) ⑥	昔話・物語の原型と異伝についての調査内容を説明できる		
		15週	調査報告書の作成 (2)	昔話・物語に関する調査報告書を作成できる		
		16週	調査報告書の作成 (2)	昔話・物語に関する調査報告書を作成できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3		
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3		
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3		
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3		
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3		
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3		
評価割合						

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0